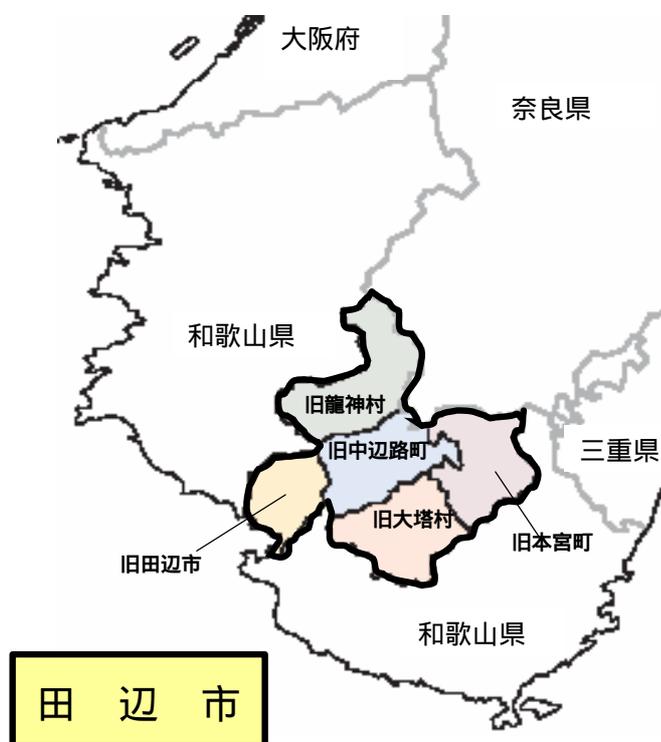


田辺市のひきこもり支援 (窓口開設 6 年目の報告)



(平成17年5月1日5市町村合併)

平成18年4月～平成19年3月

和歌山県田辺市

目 次

- 1 . 市役所が作ったひきこもりネットワークと支援	
田辺市ひきこもり相談窓口担当 目良宣子	5
2 . 田辺市ひきこもり相談窓口ピラ	8
. 平成 18 年度 支援の実際	
(1). 相談実績 平成 18 年度	13
(2). 家族会 (ほっこり会・女性の親の会)	18
(3). 青年自助会実績	20
自助会イベント . ほんまもん体験	22
自助会イベント . 和歌山大学との交流	23
自助会イベント . 私のしごと館 体験・見学	24
(4). 自助会まとめ	26
(5). 自助会・家族会 講演・交流会	32
(6). 社会体験活動	44
(7). 啓発活動・視察・実習・問い合わせ	46
(8). 行政局講座	47
(9). 若者の社会的自立を考える講演会 講師：工藤 啓 氏	52
(10). 田辺市ひきこもり検討委員会 議題 / 活動	67
(11). 田辺市ひきこもり相談窓口担当者感想	68
. 参考資料	
1 . 社会的ひきこもり家族の会 ほっこり会 紹介ピラ	73
2 . 居場所 ハートツリー 紹介ピラ	74
3 . 田辺市ひきこもり検討委員会 設置要綱 / 委員名簿	75



- 1 . 市役所が作ったひきこもりネットワークと支援
田辺市ひきこもり相談窓口担当 目良宣子 . . . 5

- 2 . 田辺市ひきこもり相談窓口 紹介ビラ 8





平成 18 年度、文部科学省主催の青少年健全育成フォーラム（10 月 31 日、京都府で開催）で、田辺市のひきこもりネットワークと支援について発表する機会を与えられたので、その内容について、平成 17 年度までの支援をまとめた冊子（ホームページに掲載を参照）を変更した部分及び新たな考察について報告する。

市役所が作ったひきこもりネットワークと支援

目良 宣子

私は、5 年ほど前から田辺市ひきこもり相談窓口を専任で受け持つことになり、人生の中で最も揺れるであろう思春期青年期の方たちと向き合うことになりました。窓口を担当する丁度 6 年ほど前の 1995 年頃から障害児の親の会に関わり始め、1999 年の障害児通園事業開設にむけての準備・立ち上げ段階から家族の方や福祉関係者と共に活動してきたことが、このひきこもり支援展開のノウハウになりました。

取組の経過については、ホームページを参照ください。

(<http://www.city.tanabe.lg.jp/kenkou/hikikomori/index.html>)

2001 年 1 月、「ひきこもり検討委員会」を設置、同年 3 月から「ひきこもり相談窓口」を開設し、支援の流れは、ひきこもりの相談窓口と検討委員会が支援体系の柱となって本人や家族を支援していきます。

相談窓口の対応でもっとも重要なことは、ひきこもりの背景を見極めることです。ひきこもりの状態は大きく分けて、統合失調症や薬物療法が必要と思われる感情障害、中等度以上の精神遅滞、上記以外の背景によるひきこもり（軽度の発達障害、軽度の精神遅滞、パーソナリティの問題、社会不安障害、対人恐怖、醜形恐怖、あるいはひきこもりの背景要因がよくわからないもの）の 3 つに分類されます。（P 9 図 1 参照）

この つきましては、関係機関に紹介、窓口が主に支援していくのは にあたります。医療機関に定着しないケースや、現行の障害者支援福祉サービスには馴染まない方も多いこと、また家族だけで本人は出てこられない、等の理由により相談窓口で継続支援を展開する事例が含まれます。

個別の相談は、初回の相談は家族からの相談が多く、家族の相談を継続し、本人との相談につないでいきます。家族や本人の仲間づくりとして、家族会、青年デイケア、居場所、自助グループと進めてきました。家庭訪問は必要に応じて基本的には本人の了解を得た場合に行っています。背景に の疑いがある場合には、関係者と共に訪問することもあります。

家族会の特徴としては、父親の参加が見られます。2004 年から自主活動になり、会の名前を「ほっこり会」といいます。（p 73 ビラ参照）

本人の仲間づくりの場として、最初デイケアをスタートしましたが、その中で、「皆と語り合える場がほしい」「心の内面を語り合いたい」と言い出した青年がでてきましたので、自助グループの育成としてスタートしました。

自助会には、既存の社会福祉資源では漏れ落ちてしまうようないろいろなタイプの青年が入っているため、ハプニングが時々起こります。しかし本質的に優しい青年達は誰一人として仲間をはじき出すことは無く、ときには話し合いをもって関係を継続してきました。支援者は必要に応じてその調整役をしています。「人を傷つけないし、自分も傷つきたくない」、「失敗を恐れ考え込んで体が動かない」、「他人の評価が気になる」、「何事も生真面目に考えていい加減にはできない」など、様々な特徴がありますが、総じて私が感じているのは「幼い頃からの“ほめられ体験”が少ないのではないか」ということです。本人に出会えたら、とにかく青年の良いところを探して本人に返していく、支援のキーワードとして、【褒める】【認める】【信じる】【待つ】ということを中心に心がけています。

自助会のルールや話し合いについては、ホームページ（平成 17 年度のまとめ）を参照してください。

話し合いの場で気をつけているのは、人の数だけ考えや意見が出てくるのであり、ひとつの価値観や感情を押し付けないで、互いに発言を受けとめ合う、ということです。

また自助会は、イベントを時々交えながら月に 2 回行っており、2005 年からは自助会の青年が独自で会場を借りて一週間に 1 回、交流の場をもつようになりました。その会を、「知音 CHI-IN（ちいん）」と称し、心の底を打ち明けて話すことのできる友、という意味を持っています。

青年に支援者の方から、学校や仕事の話をすることはありません。自助会に参加する青年の殆どが就労を希望しております。青年が、自分の力を精一杯発揮できて、やりたいことを社会のなかで実現していけるような仕組みが、地域の中の選択肢の一つとして欲しいと思っています。田辺地域では、社会福祉法人やおき福祉会の中の障害者就業・生活支援センターが 2003 年から就労支援訓練として青年を受け入れてくれるようになりました。青年にジョブコーチをつけて、就労に向けての訓練を行い、雇用につながっています。

継続している相談件数の中で、窓口での相談と青年自助会に参加したことを除く、社会的行動変化をまとめてみますと、自助会の中で仲間同士の刺激が、自動車免許の取得や就労訓練、就労につながり始めました。支援者はあくまでも本人の自発的な気持ちに寄り添った支援を展開しています。家族の相談を継続しているうちに、本人に出会えることが無いままに本人が自宅中心の生活から社会的行動へと変化してきた事例も少なくありません。就労、進学につながった約半数が、本人と出会うことなく社

会的な行動へ移っていきました。このことは、家族支援だけでも本人の活動につながっていくことを示しています。また、自助会などの仲間同士の交流が互いに刺激し合っ

て次の行動へのステップとなっています。

民間の居場所ハートツリーハウスは、2002年から既存の国・県の補助金を活用して開設され、2005年からは、ひきこもり者社会参加支援センター運営事業費補助金という、県・市の事業を活用して運営されております。2006年10月には、NPO法人格をとり、ハートツリーとして再出発しています。(P74ピラ参照)

このように、ひきこもり相談窓口は開設以来、活用できる資源を目いっぱい活用し、更に新たな社会資源を創り出す機能を担ってきました。田辺市の支援は 住民の切実な要望があり、 田辺市が行政の課題として位置づけ、 行政と民間の連携ですすめてきた、という特徴があります。地域に関わり続けていく、エネルギーを出し合っていること、この有機的なネットワーク、官民のヒューマンネットワークこそが、田辺市の財産です。このネットワークは本当に形だけのものではなく、血の通っているネットワークだと思えます。このネットワークがひきこもり支援だけでなくNEETを含めた様々な青少年問題への取り組みにつながっていくだろうと思われ

ます。

今後の課題としては、 障害者枠ではない就労支援策の開発。青年の自発性が十分に発揮され、他者への信頼や自己肯定感の向上をはかれる体験活動、夢や希望に繋がる自己実現の場や、就労支援の仕組みが地域の中に構築されていくことが必要です。

ひきこもり等青年の実態調査の実施。これは現在調査中です。 ひきこもり検討委員会、あるいは住民が支援に参画していくこと。NEETを含む昨今の青年の理解と支援。現在の青年像を子育ての結果として捉えるだけではなく、地域で子どもの育ちを温かく見守っていくという「地域力」の低下等、現在社会のひずみに敏感に反応している感性豊かな青年達の心の叫びに耳をしっかりと傾けながら、寄り添い、見守っていける大人の一人でありたいと思っております。今後、パーソナリティの問題や社会不安障害など、ひきこもっていないくても社会で生き辛さを抱えている青年のなかには、統合失調症や感情障害を主な支援対象としている精神科医療や、精神障害者福祉サービスからも漏れ落ちてしまう社会的弱者が少なくありません。国レベルで予算が確保されてきた軽度発達障害者と同様に、彼らに対しても支援の充実と展開が全国的に必要であると思われ

NEET = Not in Education , Employment or Training

仕事をせず、失業者として就職活動もしていない非労働力のうち、15～34歳で卒業者かつ未婚で、通学や家事を行っていない者(2005年の『労働経済白書』)

ひきこもり相談窓口の紹介

不登校のまま卒業あるいは中退後自宅中心の生活をしている青年、進学あるいは就職したけれど途中でやめて社会参加をしていない青年・・・ご家族や当事者だけで悩んでいませんか？

田辺市健康増進課には専用電話（26 - 4933）を設置して平日の午後2～4時に相談を受けつけています。年々相談件数は増えていますが、相談を定期的に続けていくうちに徐々に元気を取り戻していく青年が自助グループで活動中です。

問い合わせ先：田辺市健康増進課

TEL：0739 - 26 - 4901（平日8：30～17：00）

FAX：0739 - 26 - 4933

HP：<http://www.city.tanabe.lg.jp/kenkou/hikikomori/index.html>

E-Mail：shc@city.tanabe.lg.jp

自助グループ（^{CHI-IN}知音）

月2回の集まり

女性の会（月1回）

30代の会（月1回）

（その他社会資源を紹介します）

家族会

（ほっこり会）

月1回の集まり

- ・ひきこもりの子どもを持つ家族同士の心の交流
- ・家族の対応支援方法
- ・社会的ひきこもりの理解をもらうための啓発活動などを行っています

居場所

（NPO法人ハートツリー）

居場所・相談・家庭訪問・イベントなど実施

対象：ひきこもり状態にある

青年（15～30歳代までの男女）

入会金：なし

利用料：（1ヶ月）10000円

見学・体験利用は相談の上で

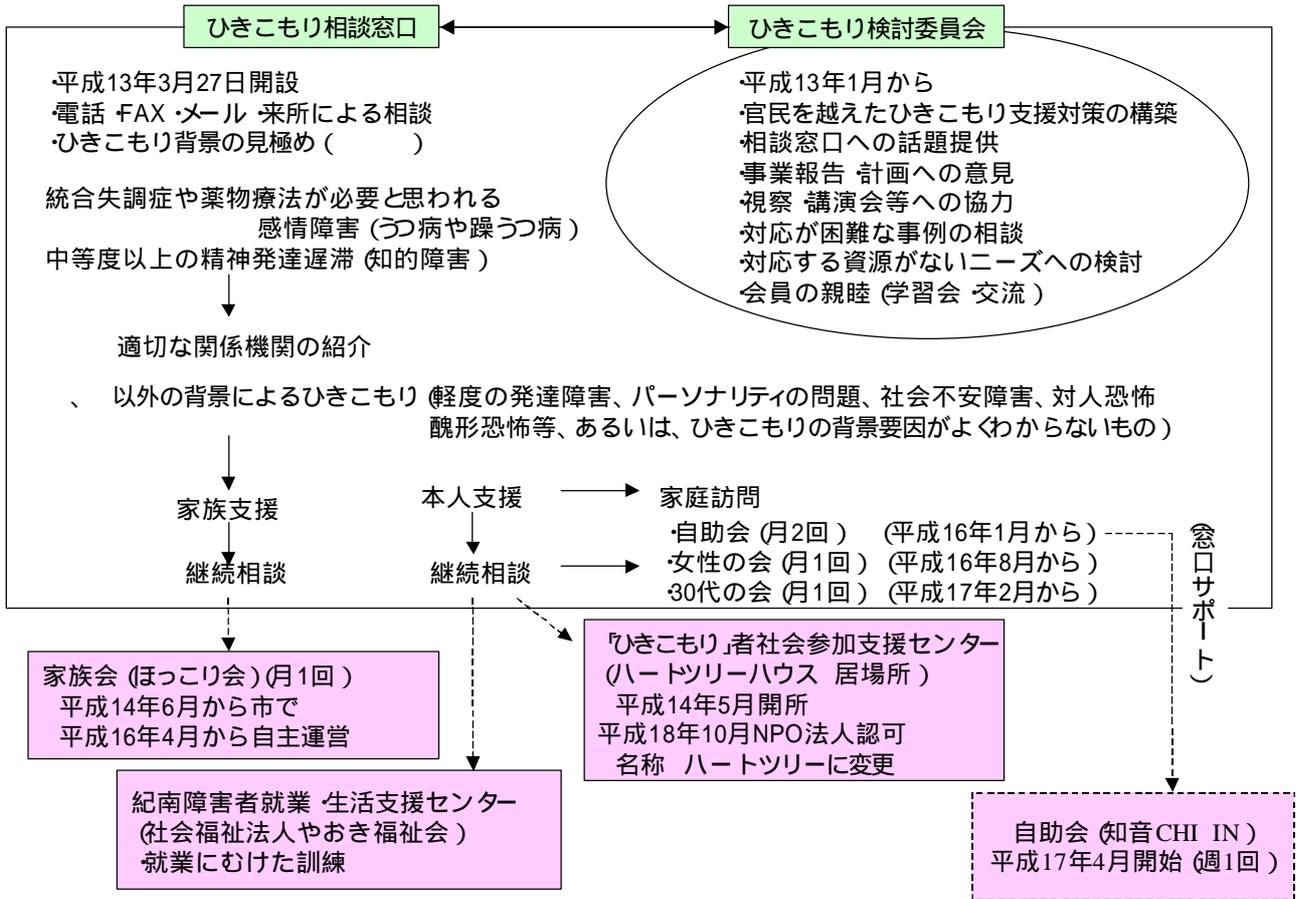
自助会

^{CHI-IN}
（知音）

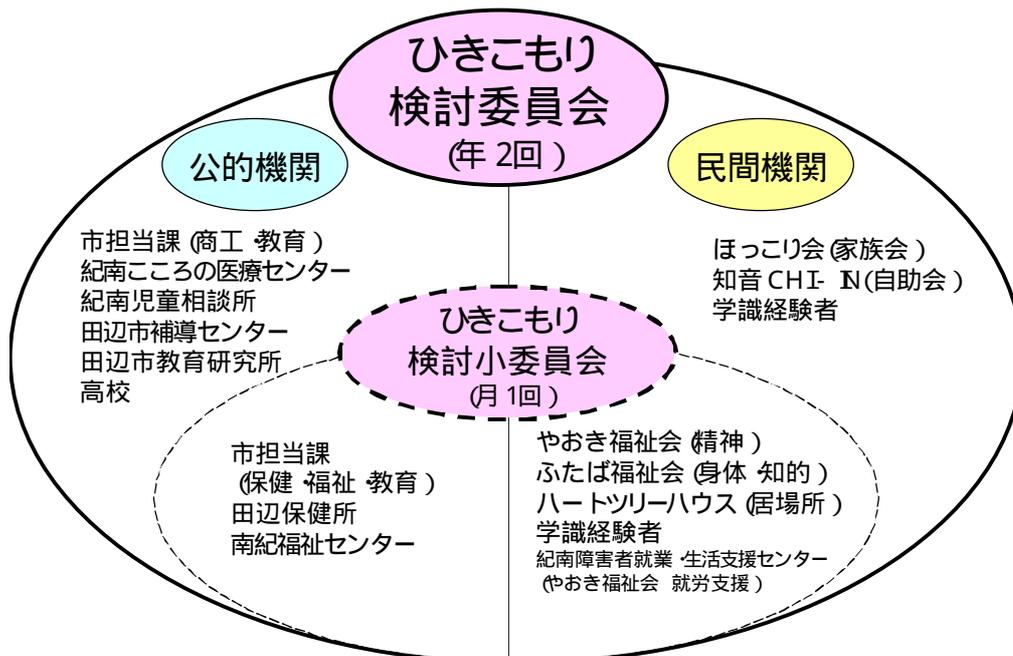
週1回の集まり

自助会で集まったメンバーが自分たちで様々な活動をしています

(図 1) 田辺市相談窓口支援の流れ (実線枠外は民間実施)



(図 2) 田辺市ひきこもり支援ネットワーク



- 2 . 田辺市ひきこもり相談窓口 紹介チラシ



(1) . 相談実績 平成18年度

相談窓口開設以降平成19年3月末までに、 326 家族 343 件の相談あり。

(内、平成17年度までに 293 家族 309 件)

年度別相談件数

	H13	H14	H15	H16	H17	H18
実件数	44	79	89	105	86	80
延べ件数	138	337	481	1097	1090	968

平成17年4月～平成17年9月までの状況

月別相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期合計	
電話	17	17	17	28	15	20	114	
来所	56	48	52	54	46	48	304	
メール	6	12	9	6	9	6	48	
訪問	1	0	2	3	2	1	9	
合計	80	77	80	91	72	75	475	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期合計	総合計
電話	20	20	6	17	16	5	84	198
来所	62	60	46	59	49	50	326	630
メール	12	15	10	21	12	9	79	127
訪問	0	1	0	2	1	0	4	13
合計	94	96	62	99	78	64	493	968

相談件数

	実件数		延べ件数
	初回	継続初回	
電話	23	12	198
来所	7	30	630
メール	4	3	127
訪問	0	1	13
合計	34	46	968
	80		

相談者(初回)

母	父	両親	本人	兄弟姉妹	祖父母	親戚	関係者	その他
10	3	2	7	2	1	4	1	4
計	関係者・・・学校関係							
34								

相談者(継続初回)

母	父	両親	本人	兄弟姉妹	祖父母	親戚	関係者	その他
22	3	1	19	3	0	1	0	0
計	3件が重複。内訳は母と本人(1)、母と兄弟姉妹(2)							
49								

- (1) . 相談実績 (平成18年度)

相談者(延べ)

母	父	両親	本人	兄弟姉妹	祖父母	親戚	関係者	その他
385	54	24	548	19	2	7	1	4

計	76件が重複。以下は内訳							
1044	本人、母(52)	本人、両親(6)	本人、兄弟姉妹(2)	両親、親戚(2)		本人、父(6)		
	本人、母、兄弟姉妹(1)	母、兄弟姉妹(8)	母、祖母(1)					

年代別男女別件数(80件中)

	~10代	10代	20代	30代	40代	年齢不明	計	%
男	0	12	20	11	1	0	44	55.0
女	0	8	15	4	1	3	31	39.8
性別不明	0	0	1	0	0	4	5	6.2
計	0	20	36	15	2	7	80	
%	0	25	45	19	2	9		

居住別(80件中)

市内	48	60.0%
市外	27	33.8%
不明	5	6.2%
計	80	

相談結果(80件中)

継続	53	66.2%	継続	相談の継続、自助G、家族会、ハートツリー利用者を含む
終了	6	7.5%	終了	就労(3)、就学(2)、その他(1)
紹介	7	8.8%	紹介先	保健所(5) 病院(1)
その他	14	17.5%	その他	関係者からの相談のみ(1)
計	80			本人、家族から相談のみ(11) ・(1)

継続について

継続分類(53件中)

統合失調症や薬物療法が必要と思われる感情障害	3
中等度以上の精神遅滞	0
、 以外の背景によるひきこもり	
軽度発達(知的)	5
その他	45
計	53

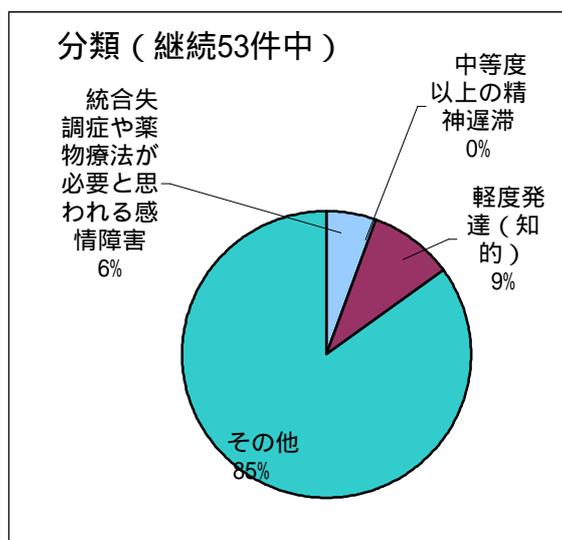
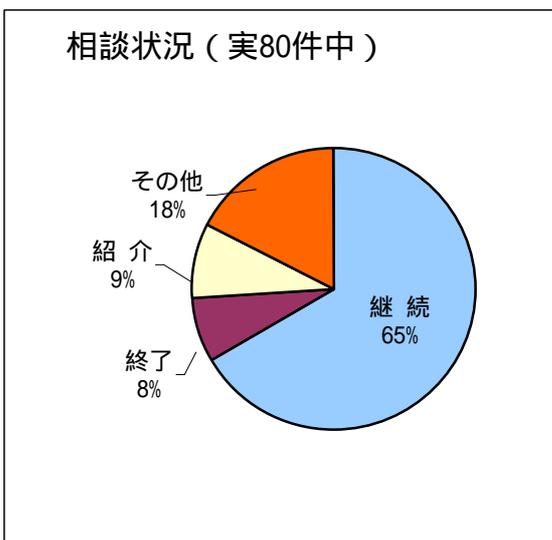
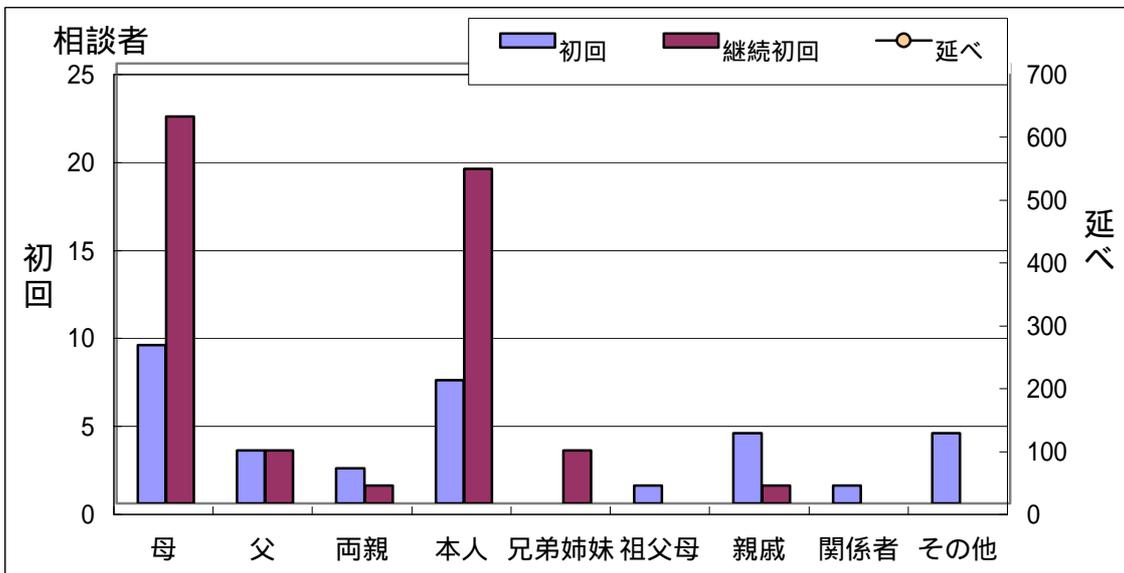
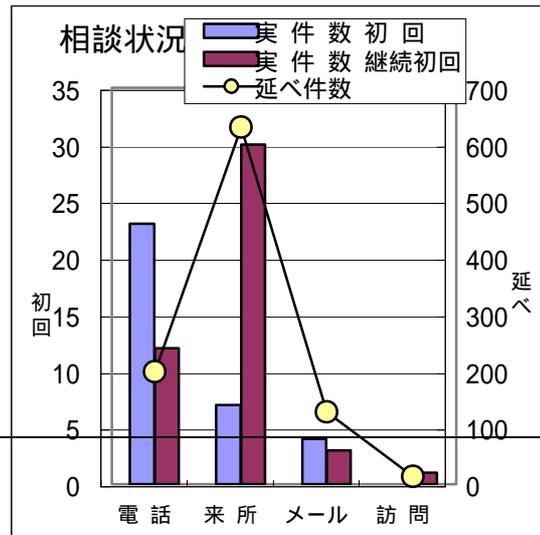
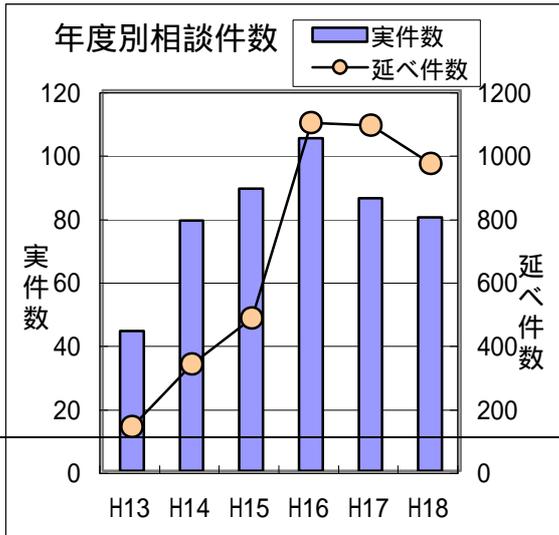
継続状況(重複あり)

自助会	20
家族会	18
医療	20
ハート	2
就労	13
就労訓練	6
作業所	2
学校	3
相談のみ	26

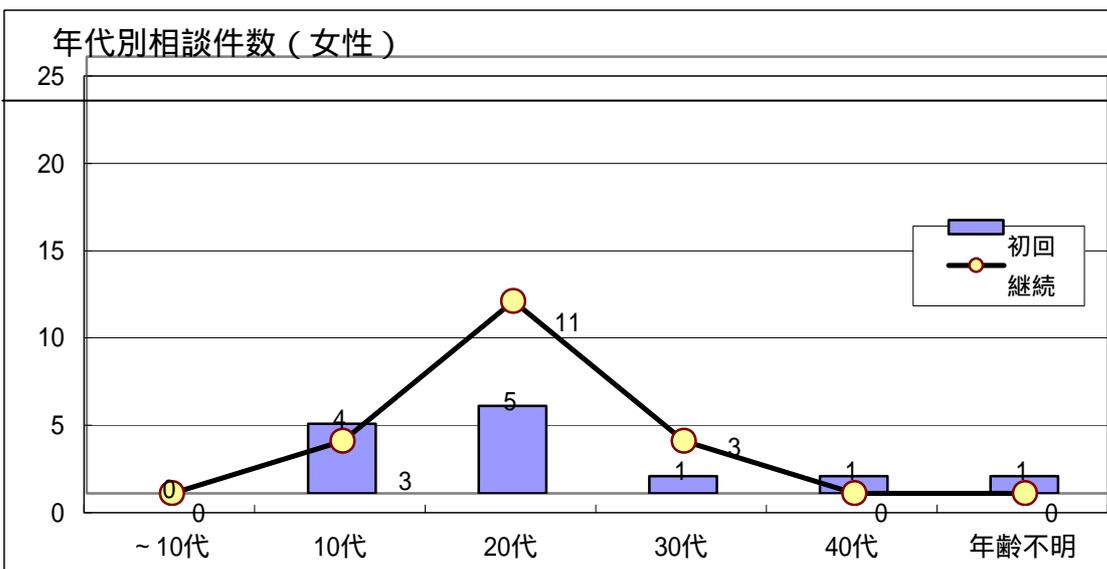
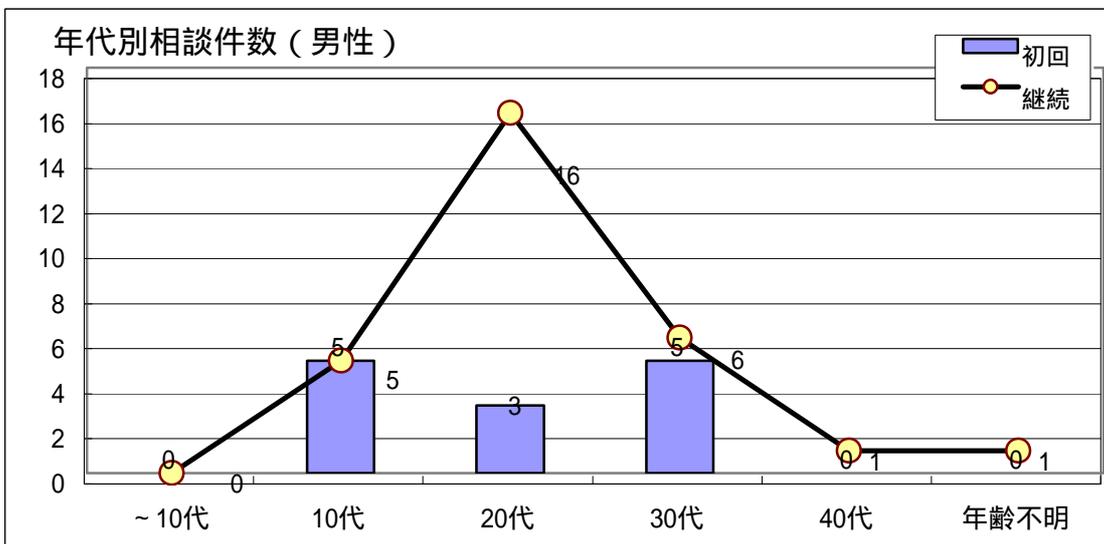
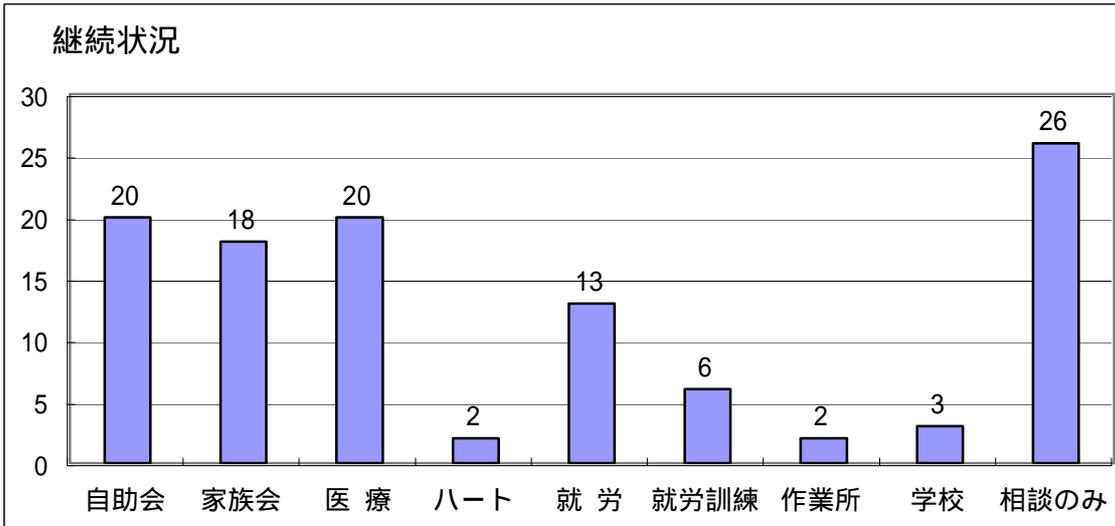
居住別(53件中)

市内	38
市外	15
計	53

	~10代	10代	20代	30代	40代	年齢不明	計
男	0	7	17	8	1	0	33
女	0	4	11	4	0	0	19
性別不明	0	0	0	0	0	1	1
計	0	11	28	12	1	1	53



- (1) . 相談実績 (平成18年度)



平成18年度末までに、学校、就労(アルバイトを含む)で支援を終了した事例8件について

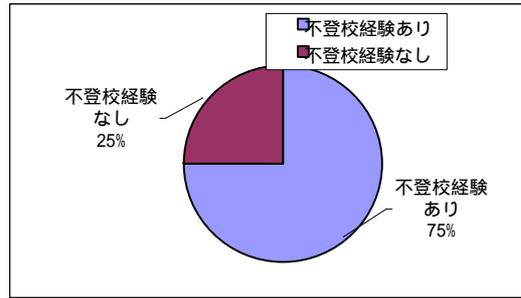
8件中、不登校(不登校気味を含む)経験は、6件(75%)である。

年代別男女別件数

	10代	20代	30代	計
男	3	0	1	4
女	3	1	0	4
	6	1	1	8

不登校経験者件数

不登校経験あり	6
不登校経験なし	2
合計	8



平成18年度中、継続支援してきた中で、学校、就労(アルバイトを含む)に至った事例15件について

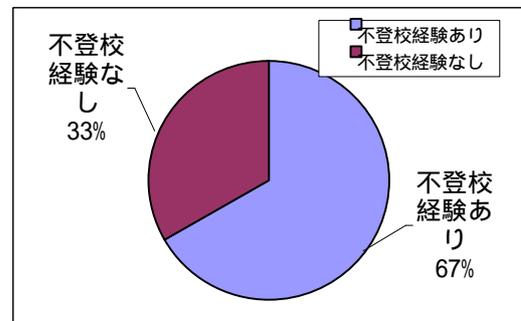
事例15件中、不登校(不登校気味を含む)経験者は、10件(67%)である。

年代別男女別件数

	10代	20代	30代	計
男	3	5	0	8
女	2	5	0	7
	5	10	0	15

不登校経験者件数

不登校経験あり	10
不登校経験なし	5
合計	15



まとめ

平成18年度末までの6年間に、進学・就職した23件(実件数)の年代別、男女別の状況は、次のとおりである。

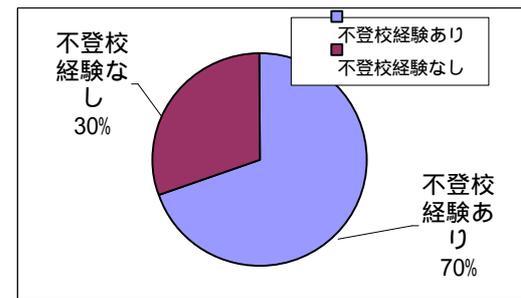
23件の内訳は、進学(大学・通信制高校)4件、就労(アルバイトを含む)19件
23件中、16件(70%)が不登校(不登校気味を含む)を経験している。

年代別男女別件数

	10代	20代	30代	計
男	6	5	1	12
女	5	6	0	11
	11	11	1	23

不登校経験者件数

不登校経験あり	16
不登校経験なし	7
合計	23



男女差はみられないが、10~20代の若者ほど、社会参加に繋がりがやすいことがうかがえる。不登校(傾向)があつて、卒業、あるいは、休学、退学した青年が早期に窓口に繋がることが、早期に社会参加に繋がると考えられる。

-(2). 家族会 (ほっこり会)

(2). 家族会実績

ほっこり会 (紀南地方ひきこもり家族の会)

(平成16年4月より自主運営)

実施日	内容	出席者				実数	参加家族数	対象家族数	
		父	母	その他関係者	窓口				
H18.4.11	午前	話し合い	5	10	0	2	15	9	
	午後	話し合い	3	6	0	2	9	7	
H18.5.9	午前	話し合い	6	11	0	1	17	13	
	午後	話し合い	3	8	0	2	11	8	
H18.6.13	午前	話し合い	4	8	0	2	12	9	
	午後	話し合い	3	5	0	2	8	6	
H18.7.11	午前	話し合い	4	8	0	1	12	9	
	午後	話し合い	3	4	0	1	7	5	
H18.8.8	午前	話し合い	4	5	0	1	9	5	
	午後	話し合い	4	5	0	1	9	5	
H18.9.19	午前	話し合い	2	12	0	1	14	12	
	午後	話し合い	2	7	0	1	9	8	
H18.10.11	午前	話し合い	2	7	0	2	9	8	
	午後	本談(和歌山市)	3	10	2	1	13	11	
H18.11.14	午前	話し合い	4	9	2	2	13	9	
	午後	話し合い	2	11	1	2	13	11	
H18.12.12	午前	話し合い	2	11	0	1	13	11	
	午後	話し合い	3	12	0	1	15	12	
H18.1.9	午前	話し合い	2	5	0	2	7	6	
	午後	話し合い	2	5	0	1	7	6	
H18.2.13	午前	話し合い	2	7	0	1	9	8	
	午後	窓口不参加のため 不明							
H18.3.13	午前	窓口不参加のため 不明							
	午後	窓口不参加のため 不明							
平均			3.1	7.9		1.4	11	8.5	14
イベント									
		親父の会	5	4	0	0	9	5	14
H18.2.13		私のしごと館	3	4	14	2	7	4	

女性の親の会 (市で実施)

実施日	内容				実数	参加家族数	対象家族数
		母	その他関係者	窓口			
H18.4.25	話し合い	2	0	2	2	2	3
H18.5.30	話し合い	2	0	1	2	2	
H18.6.27	話し合い	1	0	2	1	1	
H18.7.25	話し合い	2	0	2	2	2	
H18.8.22	話し合い	1	0	2	1	1	
H18.9.26	話し合い	2	0	1	2	2	
	平均	1.7	0	1.7	1.7	1.7	

-(3). 自助会実績 (月2回の集まり、女性の会)

(3). 自助会実績(月2回の集まり)

実施日	内容	出席者	対象数	実施日	内容	出席者	対象数
H18.4.7	日々の過ごし方 仕事について	7	15	H18.11.17	自助イベントについて 会話について	4	16
H18.4.21	仕事について	7		H18.12.15	クリスマス会 今年1年振り返って	6	
H18.5.19	近況について	7		H19.1.5	自助イベントについて	5	
H18.6.2	自助イベントについて アンケートについて	9		H19.1.19	今年の目標について 近況について	4	
H18.6.16	自助イベントについて コミュニケーションについて	5	H19.2.2	自助イベントについて	4		
H18.7.21	自助イベントについて	5	H19.2.16	ガラスのエッチング体験 (NPO法人絆)	4		
H18.8.4	自助イベントについて 友達について	4	H19.3.2	自助会・家族会 講演・交流会について	3		
H18.8.18	携帯について 心理学について (視察大学院生参加)	3	H19.3.16	近況について ここ3ヶ月以内でやってみ たいこと	6		
H18.9.1	自助イベントについて	6					
H18.9.15	自助イベントについて 近況について	6					

女性の会実績(月1回の集まり)

実施日	内容	出席者	対象数
H18.9.26	話し合い	1	6

○知音 (自主運営、参加要請の場合に参加)

実施日	内 容	参加者
H18.4.5	話し合い	3
H18.4.11	話し合い	5
H18.4.19	近況について 心理療法について	3
H18.4.26	話し合い	3
H18.5.10	連休の過ごし方について 近況について	4
H18.5.17	ボランティア説明 (ふたば福祉会)	2
H18.5.24	社会参加について 自費出版について	4
H18.5.31	話し合い	2
H18.6.7	話し合い	6
H18.6.14	話し合い	2
H18.6.21	話し合い	3
H18.6.28	話し合い	4
H18.7.5	話し合い	4
H18.7.12	インターネットについて 近況について	4
H18.7.19	話し合い	3
H18.7.26	話し合い	4
H18.8.9	就労訓練について 友達について	3
H18.8.16	話し合い	4
H18.8.23	ほんまもん体験について 休日の過ごし方について	4
H18.8.30	話し合い	3
H18.9.6	話し合い	1
H18.9.13	話し合い	5
H18.9.20	話し合い	3
H18.9.27	話し合い	3

実施日	内 容	参加者
H18.10.4	話し合い	4
H18.10.11	話し合い	4
H18.10.18	話し合い	5
H18.10.25	話し合い	3
H18.11.1	話し合い	4
H18.11.8	支援者不参加のため	不明
H18.11.15	話し合い	4
H18.11.22	話し合い	4
H18.11.29	話し合い	4
H18.12.5	話し合い	5
H18.12.13	話し合い	4
H18.12.20	話し合い	4
H18.12.27	話し合い	4
H19.1.10	話し合い	4
H19.1.17	話し合い	5
H19.1.24	話し合い	4
H19.1.31	話し合い	3
H19.2.7	話し合い	4
H19.2.14	話し合い	3
H19.2.21	話し合い	2
H19.2.28	話し合い	4
H19.3.7	ガラスのエッチング体験 (NPO法人絆)	3
H19.3.14	話し合い	3
H19.3.28	ガラスのエッチング体験 (NPO法人絆)	3

自助会イベント . ほんまもん体験

日程	場所	内容	参加者
7月7日	すさみ町 五郎水	薪窯で焼くパンづくり 鮎つかみをする予定が、悪天候により変更。2つのグループに分かれ、各自、自家栽培の小麦を半分混ぜた生地をこね、醗酵させ、薪窯でパンを焼き、焼き立てのパンを試食しました。自助会メンバーで薪割をしたり、メンバーで使った器具を洗ったりもしました。「つくったパンがおいしかった。」生地をこねたこと、「焼き上がったパンが出てきた時。」などが印象に残ったというような感想がありました。最初のイベントでもあり、パン作りの作業の合間の待ち時間の過ごし方、何の会話をしたらよいかなど戸惑いがあったというような感想も自助会の中などで出てきていました。	自助メンバー (9) やおき古道ヶ丘支援者 (1) 相談窓口 (2) 
9月2日	白浜町 日置	酪農・ソーセージ作り 4つのグループに分かれ、二人一組で作業をしました。肉と香辛料などを混ぜ、一人が器具に肉を詰め羊腸に送り、一人が羊腸を広げ肉が長い羊腸にスムーズに入るようにサポートしました。同じ作業を、交代して体験しました。自家製のアイスクリーム、絞りがたての牛乳もいただきました。急に来れなくなったメンバーなどの分も作ったグループが、作業を余分にすることになり、時間がかかりました。感想では、「ソーセージを作った時よりも、他の人に待たれていたのが少し嫌だった。作業に追われている感じがした。」他に出来ないような経験が出来てとてもよかった。前回のパン作りほど緊張しなかったし、楽しく時間を過ごすことが出来た。」などがありました。	自助メンバー (8) ハートソリーメンバー (3) 検討委員 (2) ハートソリー支援者 (2) やおき古道ヶ丘支援者 (1) 相談窓口 (2) 
10月6日	有田川町 清水	わらし作り 地引網をする予定が、悪天候により変更。地元のおばあちゃん達が1対1で親切に教えてくれました。少し早くついたので、体験までの間、お店でお土産を見たり、買ったりしながら、会話をしたりしている場面もありました。「はじめはぞうりをあむのが難しかったが、コツをすぐに覚えられて出来上がりを褒めてくださったのが嬉しかった。」父や母にわらしのことを聞いたが、誰も作ったことがなかったのも、いい経験になったと思いました。」などという感想がありました。	自助メンバー (7) ハートソリーメンバー (1) 検討委員 (2) ハートソリー支援者 (2) やおき古道ヶ丘支援者 (1) 相談窓口 (2) 
12月1日	和歌山市	和歌山城歴史散策 和歌山城を語り部さんのお話を聞きながら、歩きました。普段はあまり通らない城の裏側も歩きました。紅葉もきれいで、携帯のカメラで写しているメンバーもいました。語り部さんの少し早いペースに、普段、歩きなれず疲れが見られたメンバーもいました。感想では、「階段が疲れた。」疲れたけど、楽しかった。「和歌山城の石垣が印象に残った。」池や紅葉がきれいだった。「和歌山城の歴史など聞けてよかった。」城内の表側から歩いたことはあったけど、今回の城の裏側からは初めてだったので楽しかった。」などがありました。	自助メンバー (6) ハートソリーメンバー (2) エルシテオメンバー (1) ハートソリー支援者 (2) エルシテオ支援者 (1) やおき古道ヶ丘支援者 (1) 相談窓口 (2) 

自助会イベント(2). 和歌山大学との交流

日程	場所	内容	参加者
10月20日	和歌山市	<p>和歌山大学アミーゴとの交流 和歌山大学では、最初、和歌山大学構内を職員の方に案内していただきました。天気がよければ、景色がきれいに見えるそうですが、あいにく天候が悪く、見えませんでした。構内を見学するのがしんどく、保健管理センターで休ませてもらったメンバーもいました。その後、アミーゴとラテンアメリカ研究会の学生さんと机を輪にして話をしました。こちらの自助会の様子を代表のメンバーが話をし、その後、和歌山大学の学生さんから、アミーゴ、ラテンアメリカ研究会の活動や体験談を聞きました。体験談として、不登校から、エルシテオ(ひきこもり青年の居場所)を通じてグアテマラに行ったり、大検を取って、社会人入学をしたという話をしてくれました。感想は、「アミーゴと交流はいまいちどうしたらいいのかわかりませんでした。大学の先生の話は、大学に行く人にはいい話だけど、行く気のない私は、どうしたらいいかわかりませんでした。でも、ボランティアの話は楽しそうでした。」円形に座ったので、目をどこにやっても、誰かと目が合ってしまうので、緊張の連続でしんどかった。」などがありました。</p>	自助メンバー(6) 検討委員(2) 相談窓口(2)
11月12日	和歌山市	<p>和歌山大学 学校祭 大学に到着後、各自、模擬店を回ったり展示を見たりしました。午後、アミーゴ、ラテンアメリカ研究会の展示の部屋に行き、展示しているグアテマラの写真の説明を聞いたりしました。参加していただいた検討委員さんと一緒に行動したメンバーもいました。感想では、「人込みにもまれながら敷地内をたくさん歩いたから少し疲れたけど、今回のイベントを通じていろんな人に出会えて、自分の視野が広がったような気がします。いい経験になりました。大学で勉強したい、という意志が強くなりました。」災害の話と遺跡と風景の写真(グアテマラ)が印象に残った。」支援者(窓口以外)と一緒に行動することがあった。足湯に使ったり、職業の適性をパソコンで診断したり2人で行動する時は特に問題なかった。模擬店で昼食の際、何人かで行動する時、なかなか決まらなくて、結局一人で行動した。団体行動で、自由行動のとき、決まらない事があると強いストレスを感じるようになった。」などの感想がありました。感想は、抜粋して書いていますが、他のイベントの感想より沢山書いているメンバーが多かったです。</p>	自助メンバー(6) 相談窓口(2)

自助会イベント . 私のしごと館 体験・見学

(主催 和歌山県経営者協会 若年者地域連携事業推進センター)

日 時 平成19年2月28日 (日)

場 所 私のしごと館 (京都精華 西木津地区)

参加者 23名 < 検討委員1名 当事者10名 家族8名 支援者5名 >

(当事者内訳 田辺市自助会7名 ハートツリー3名)



感 想

初めて湯飲みの絵付けを体験しました。まず、図柄で思案し、学生依頼の絵筆を持って、色つけに四苦八苦、手が振るえてヨレヨレの線ながらどうにか時間内に仕上がりました。どんな焼き色が出るか楽しみです。他にも色々体験してみたいものがあって、又、機会があれば今度は息子と来たら・・・と思いました。

三十数年間、同じ仕事をしてきて、広い視野で物事を見ることが出来なくなっている自分に気がきました。ゆとりのある生活を心掛け、それぞれの仕事に対する理解を深めていきたいと思います。多くの若者が来ているのには正直、びっくりしました。県内にもほしい施設だと思います。自分のまわりの人達に話をしていきたいと思います。

デコレーターを体験しました。最初は難しかったけど、係りの人にアドバイスをしてもらいながらやっているとだんだん楽しくなってきましたが、あっという間に時間になってしまいました。昨年に引き続き、今年も貴重な体験が出来て良かったです。(ただし、デコレーターをやったのは、他には知らない人ばかりだったので、余計に緊張しましたが)帰り際、係りの人に経営者協会の方ですかと聞かれたので、説明するのにちょっと戸惑いました。

昨年より、中身も知っているだけに充実できた。ほんまもん体験などで面識もあったので、メンバーとも話せる内容に幅が出来た。

体験が難しかったですが、良かったです。次回も参加したいですが、次はひと工夫があってもいいかと思っています。

時間制限があるのですが、もう少し独創性のある作品が作りたかったです。でも、良い記念になりました。ありがとうございました。

桐箆笥づくりを体験したのですが、あんまり作らしてくれなくて、残念でした。でも、良い桐箱を作ることができて、嬉しかったです。ありがとうございました。

体験の前後の時間が中途半端に空いたので、行きにくかったような感じがします。どちらかでまとめて時間があれば、初めての人にはゆっくり見てもらえたかな？少し慌しかったです。仕事の体験は、それなりに楽しかったのですが、なかなか現実とは結びつきにくいものですね。でも、今年も皆さんと一緒にこういった行事に参加できて良かったと思います。

体験では、知らないことが知れて良かったです。たくさんの体験があって、他のもやってみたいと思いました。

疲れていて、体調が悪かったけど、参加して良かったと思う

京友禅を体験して、色を塗るのも難しかったです。すぐにしんでしまうので少し困った。でも、楽しかったです。その他は、自分発見と職業適性診断なんかをしてみました。でも、なれそうにない職業が出てきたので、どーすんのかと思ってしまったりもしました。もう少し時間があつたらしくデータを出せたかなとか思いました。来年も行けたら行きたいなーと思いました。バスの中では、ほとんど寝てたりしました。パーキングエリアでは、色々、見てまわったりしました。とりあえず、体は元気でした。知らないところを見てまわるのは楽しかったです。

楽しく過ごせて良かった。

今日は、京都の私のしごと館へ行って来て、様々な体験を通じて未来の自分のなりたい仕事を見つめ直すことが出来ました。始めに体験したコーナーは、12番の社会の基盤を支える人々の所で、高压電線を敷く作業員の方の作業位置や、深海で作業する方の水深何メートルかの深さまで、体験できました。この私のしごと館に体験・見学できて良かったです。楽しかったです。広い館内でたくさんのコーナーに分かれており、僕が体験したのは福祉の現場で働く人の体験でしたが、とても親切に、内容を教えてくださいました。一人っきりだったのですが、丁寧に、分かりやすく教えていただき、介護の仕事について深く理解できました。僕は、大学2年生くらいまでしか単位を取れていないのですが、もう少し様子を見てから、また、大学へ戻れるように心掛けたいです。体験させていただいてありがとうございました。

沢山の事を発見出来たり、色々な自分に合った職が見つかることが、いつかの自分発見できることが出来るのだと思う。沢山の事を体験できることは、自分にとっての視野が発見できたり、人を支えられる自分になっていくと思う。私は、沢山の事を学んだり、人を支えられていく自分が人をもっと豊かに出来るかな、そんな自分が楽しみかな??でも、すごくいい思い出になったり、自分の心を豊かに出来たかな??どんな困難でも人を大切にしたい。また、機会があったら参加したいかな??



(4) 自助会まとめ

自助会参加者の動き（平成19年3月末現在）

平成16年1月から開始した青年自助会に1回でも参加した青年は、29名であった。平成18年度スタート時点までに、9名の青年が利用しなくなっている。その内訳は、就労(アルバイトを含む)が4名、他施設の利用が2名、不調(他機関紹介中)が1名、家事手伝いが1名、ひきこもり状態が1名である。

今年度自助会の様子（平成18年12月末現在）

今年度の青年自助会は、例年のように月2回実施してきたが、7月～12月までに月に約1回、年6回イベントを実施。集まっている青年を中心にイベントにおけるスケジュール及び、内容等を話し合いながら進めてきた。年度当初からイベントについて説明。イベント実施機関中に新しく出入りのあった青年にも声をかけて、最終的には18名の青年の内、平均約7名の参加であった。青年自助会以外に、ハートツリー(平成18年10月にNPO法人に認可)やエルシティオ(和歌山にあるひきこもり者社会参加支援センター)、和歌山大学学生・アミーゴ(スペイン語で心の内を語り合える友の意で、青年自助会の名称「知音」と同意語)との交流をはかった。

福祉バス(移動に活用)では、ほとんど会話を交わさない状況ではあるが、徐々に緊張感がほぐれ、休憩所などでは言葉を交し合う様子が見られた。

ほんまもん体験で出会った人達やはじめの体験を通じての感動が、次の新たなエネルギーを少しずつ高めてくれたようにも感じる。イベント実施期間中から就労訓練やアルバイト、免許の取得へと行動が広がっていった青年もいた。イベント当日の行動だけではなく、それを通じて企画や反省会等、共通の会話が広がったことも影響している。

新しい交流に、時間がかかる傾向があるため、今年度の出会いを来年度の活動と更なる交流につないでいきたい。

イベント期間中に参加した18名についての状況

男女とも20歳代前半が多く、初回相談の7割が家族からである。

ひきこもり期間は、最高8年で、3年未満が18人中13人(72%)、不登校歴、面接前の受診歴ともに72%である。

職歴がある青年は、18人中4人(22%)である。

本人と面接できてから自助会に参加するまでには、ほぼ、1年以内である。

イベントに参加する前からの就労及び、就労訓練、バイトの3名を除いた15名についてみると、一人暮らし、アルバイト、就労訓練、作業所、免許取得などの行動の変化がみられた者は、13人、8割であった。

自助会まとめ 対象者18名

年代別 (表1)

(単位:人)

	10代	20代	30代	40代	合計
男	1	7	1	1	10
女	1	6	1	0	8

初回相談者 (表2)

(単位:人)

家族	本人	家族と一緒に	合計
13	2	3	18

ひきこもり期間 (表3)

(単位:人)

6ヶ月未満	6ヶ月~1年	1年~3年	3年~5年	5年以上	10年以上	合計
4	2	7	1	4	0	18

5年以上のメンバーのうち最高は8年

不登校歴 (表4)

(単位:人)

有	なし	合計
13	5	18

受診歴 (表5)

(単位:人)

有(面接前)	有(面接後)	なし	合計
13	3	2	18

職歴 (表6)

(単位:人)

あり	なし	合計
4	14	18

本人面接開始から自助会参加に至るまでの期間 (表7)

< 18人中、H16.1~開設当初の3名を除く15人 > (単位:人)

1ヶ月未満	1ヶ月~2ヶ月	2ヶ月~7ヶ月	7ヶ月~11ヶ月	合計
7	4	2	2	15

- (4). 自助会まとめ

イベント参加した人数と回数 < 18人中就労訓練、バイト、就労の3人を除く15人 > (表8)
(単位:人)

回数	人数	備考
1回	4	内、1人はアルバイト
2回	3	内、1人はアルバイト、1人職業訓練
3回	4	内、2人職業訓練、1人作業所
4回	2	
5回	1	
6回	1	
合計	15	

社会行動の変化 (表9)

(単位:人)

社会行動が広がった	11
社会行動が広がらない	4
変化なし	3
合計	18

「行動が広がらない」の内、2人は自助には出てきていなかったが、イベントに来た。
「変化なし」の内2人は、就労、作業所通所中。

平成18年4月1日以降の変化 (表10)

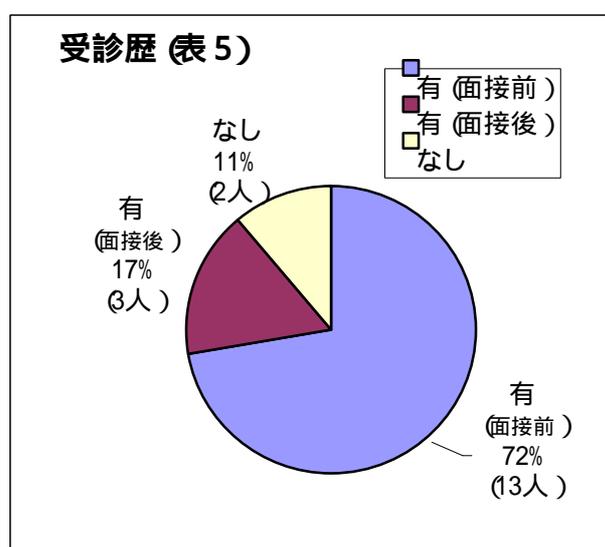
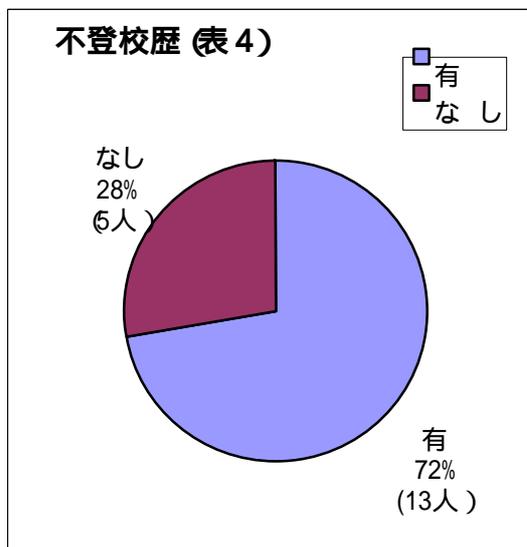
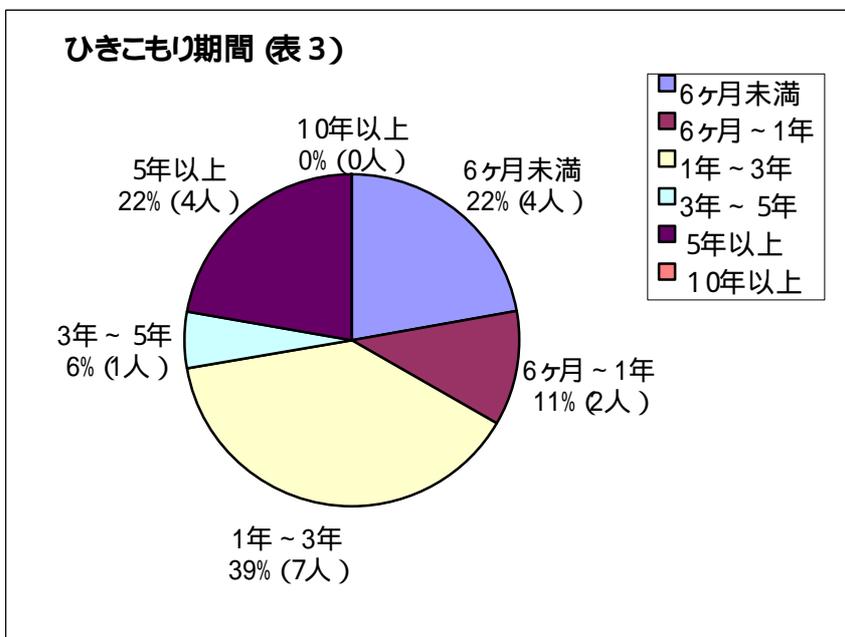
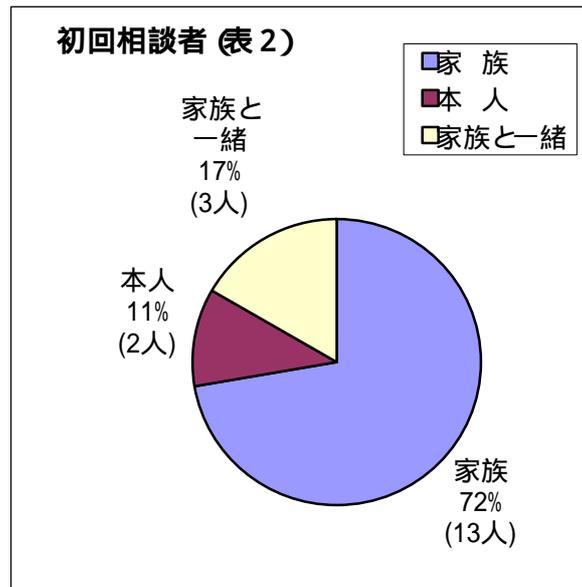
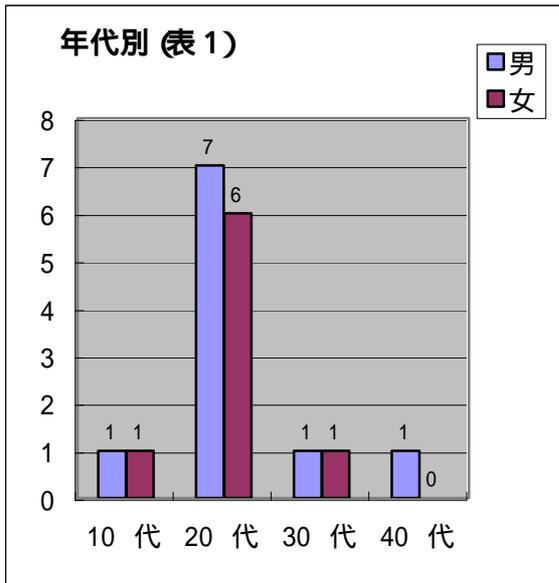
(単位:人)

免許取得	1
就労訓練	4
就労 (アルバイト含む)	3
一人暮らし	1
ボランティア	1
作業所 (ハート)	1
合計	11

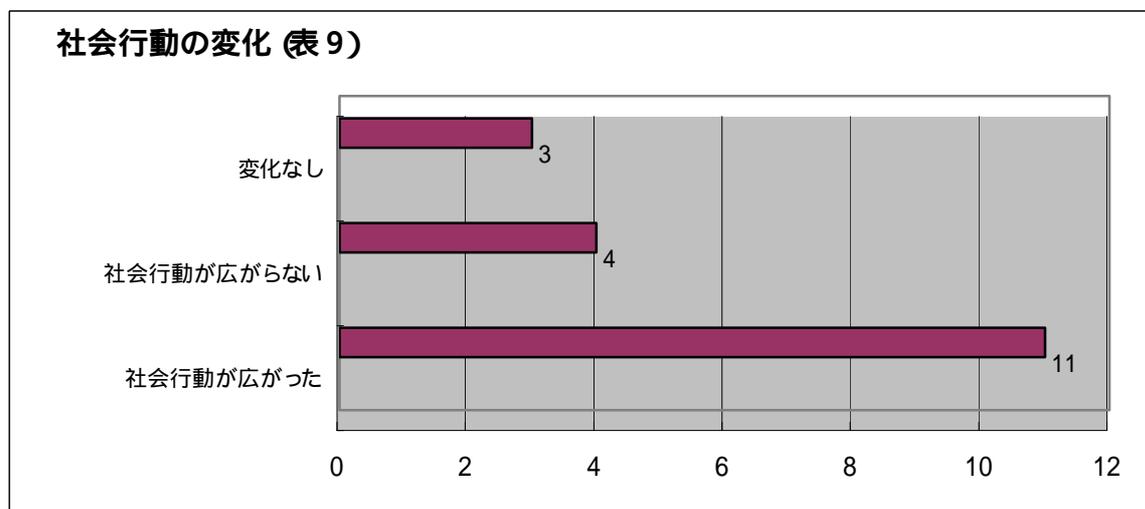
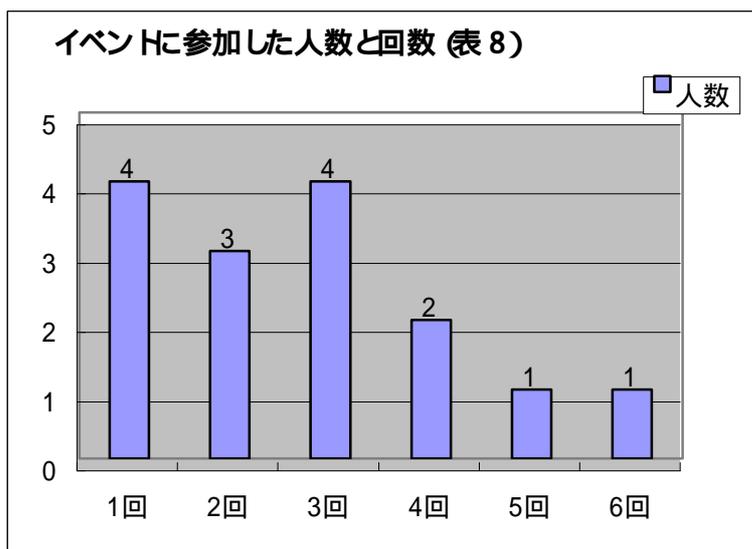
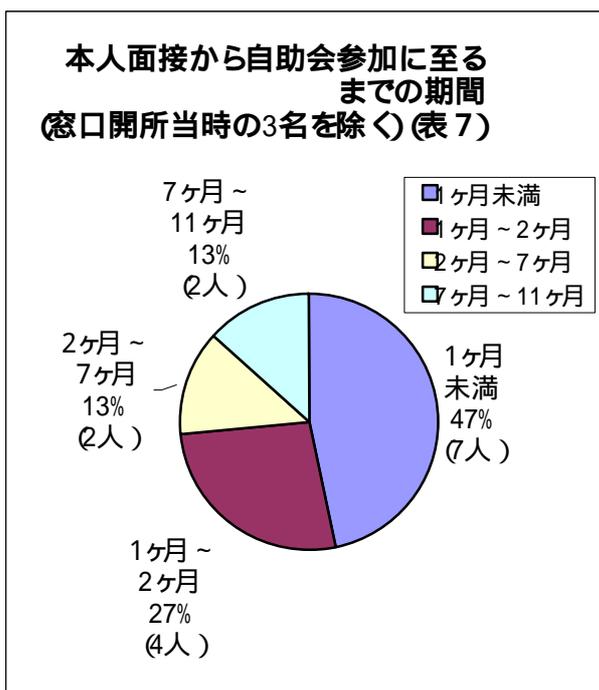
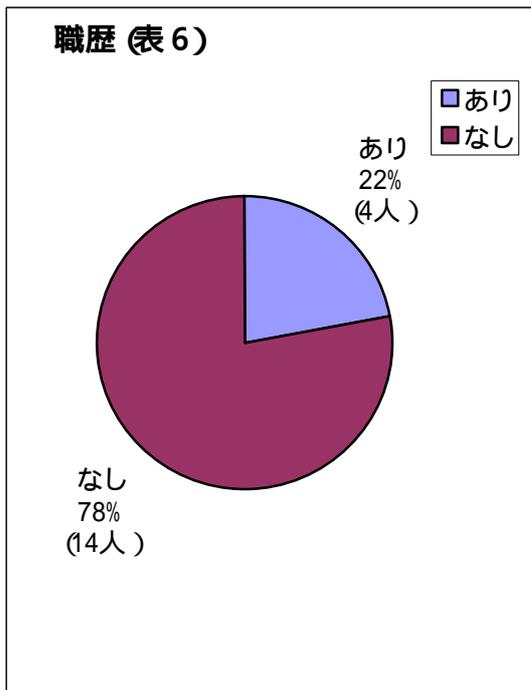
始めて面接してから、平成18年4月1日までの社会活動 < 表10の青年以外 > (表11)

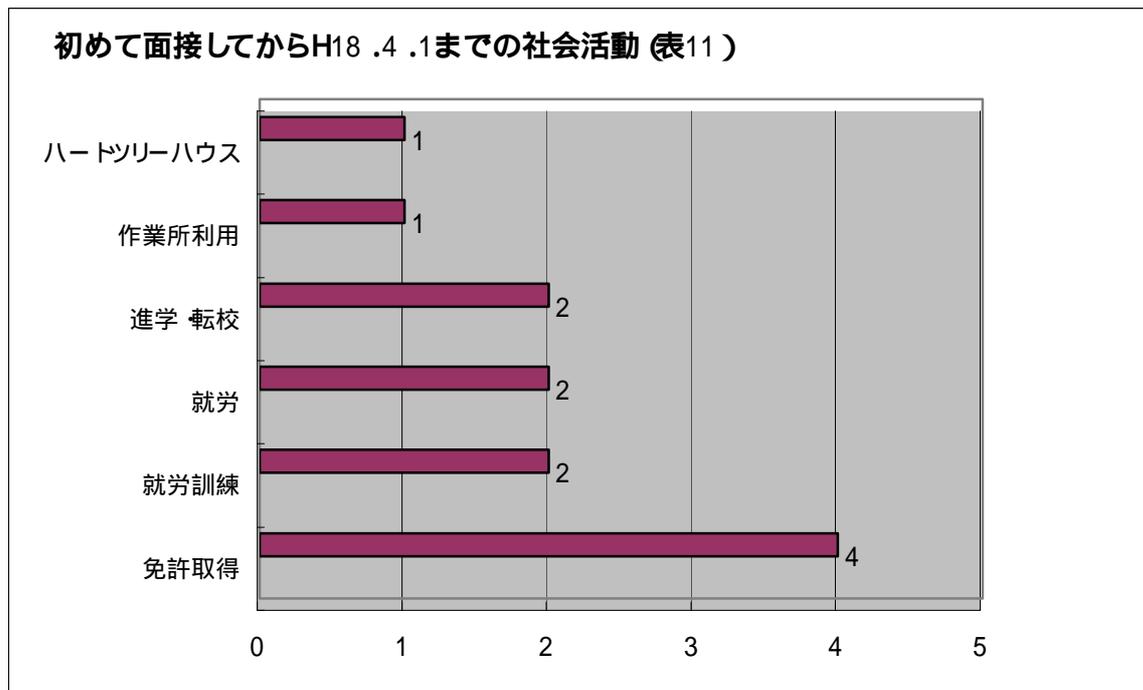
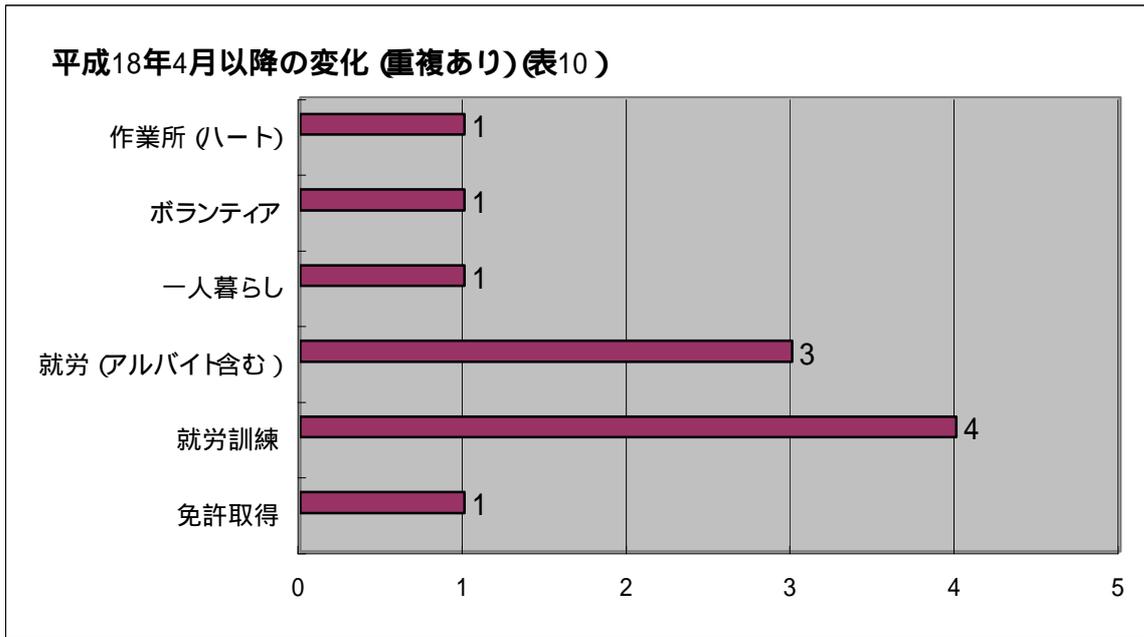
(単位:人)

免許取得	4
就労訓練	2
就労	2
進学 転校	2
作業所利用	1
ハートツリー	1
延べ数	12



- (4) . 自助会まとめ





(5). 自助会・家族会 講演・交流会

講 師 : 和歌山大学保健管理センター所長 宮西 照夫氏

(演題) 「ひきこもりからの回復を考える」

和歌山大学経済学部学生 アミーゴ 幡川 智也氏

「ひきこもっていた頃の僕」

日 時 : 平成 19 年 2 月 26 日 午後 1 時 30 分から 5 時 30 分

場 所 : 田辺市総合センター 1 階 機能訓練室

参 加 者 : 自助会メンバー 4 名、家族会 7 名、

ひきこもり検討委員 1 名

ハートツリーメンバー 2 名、

ハートツリー支援者 2 名、窓口担当 2 名



宮西教授 : 【はじめに】

私は和医大で 8 年間勤めた。そして、1 年間、田辺の新庄別館で勤務したこともある。懐かしい地です。

その後、自分がやりたい事、マヤ文明がなぜ滅びたのかを研究したくて、和歌山大学へ移ったのだが、その時丁度、無気力な学生、いわゆる、スチューデントアパシーが多くなった時期と重なって、今の活動を始めた。

当時、出来た自助グループ「老賢人会」は、ストレートで入って 4 年で卒業する学生よりも、6 ~ 7 年、ゆっくりやる、つまり、「ストレートで出た人より我々は賢い」というところから、この名称が付けられた。勿論、ユングの老賢人の意味を含んでいる。そのメンバーの中には経済学部の学生で、専門学校に行き、PSW をとって精神科の病院で働いている人も何人かいる。その一人の学生は、大学に 10 年在籍していた。この老賢人会は、8 年くらい活動し、もう少し粋な名前ということで、「アミーゴの会」と変えた。アミーゴというのは親しい仲間という意味で、アミーゴの仲といえ、大臣でもすっと会えるくらいの親しい間柄である。何でもありの、よく分からない集まりだ。

私が学生の時代は、大学は、親に頼んで行かしてもらったところであった。行きたい人が行くところ、嫌なら辞めたらよい。20 年経つと、大学変わってしまっていた。クラブ活動やアルバイトは出来ても、大学の授業には出れない学生もいた。そんな学生に、「別に、大学に来ずに辞めたらよい。家に帰ったら良い。」というと、「家には帰れない。父親は怖い。」と必ず答えた。10 年間の在学中、祖母にこっそりお金を出してもらっていた人もいた。今は、半年遅れると、親からどうしたらよいのか、電話してくる。大学版の不登校は、全国のどんな大学にも存在するというのが、共通認識である。大人になるのは 35 歳、大学生は子どもと考えよう。現在の若者は、35 歳まで青年期を謳歌できる。若者にとっては、良い時代である。親に甘えられる。大学が変わってしまった。若い人達との付き合いも、頭を変えないといけない。メンタルな面では、男子学生のひきこもり、女子学生の過食症が増えた。大学に入学させた限りは、無事卒業出来るようサポートするのが我々の役目と考える。そのために、和歌山大学では PSW や臨床心理士を雇い、メンタルサポート室を新たにオープンし、メンタルサポートを充実させている。最近では、見学にいろんな大学の関係者が来る。ひきこもりに関しては、ここ 20 年間で大学版不登校といえる、学業

が困難となりひきこもる学生が3倍になっている。その中で、男性は9割である。女性の過食症も3倍近くに増えた。例えば、家からの仕送りは平均10万円ちょっと、そのお金で駄菓子を買って、一週間足らずで食べてしまう摂食障害の学生もいる。本来、大学は自由なところで、積極的に自分で取り組んでいくところであるが、自分で授業の登録できないとか、学園生活に必要な最低限のことすら出来ない人が急増している。大学に必要なスキルが不足している学生を助けるのがメンタルサポーター「アミーゴ」である。

したい勉強をしたらよい。何もかも完ぺきにしようとするのは駄目。出来ない。単位を取ること、本当にやりたい勉強に集中すればよい。今の若い人達、勘違いしている。高校や大学に入るための勉強は、手段である。何をやりたいかが大事である。楽しめるかどうか、手段を目的としてしまっている、それで自分は何をしたらよいのか分からなくなっている。大学に入れてくれているのに親に文句ばかり言う。多くの学生は、ゆっくり遊びたいから大学に来たと答える。今の高校では、受験勉強ばかりで何も与えてくれない。

【ひきこもりからの回復を考える】

大学版、不登校の数、私は和太に25年以上いるのですが、学業生活に困難をきたしアパシーやひきこもり状態となった人は118名だった。大学に、授業に出ようと思って出来なかった人である。卒業したい、勉強したいけど、大学に足を踏み入れるのが困難となった学生である。

依頼され、我々が開発したひきこもり回復支援プログラムを外部の人に試験的に実施している。3年で46名。外部から依頼を受けて、ひきこもりからの回復支援を実施した。46名中、両親で来たのは1、2人で残りは母が大学へ来られた。ひきこもり年数、家の人以外と話をしていない年数の平均は5、6年であった。下宿生は買い物だけは行く事が多い。自宅でひきこもるとネット注文で欲しいものを買う人も多い。

第一段階は、大学生の場合と同じく、彼等が出て来れない場合、私が家庭訪問して診断した。納得のいくデータを出したかったからである。その他、母親との面談を3回くらい重ねると、出てきてくれる人がいた。家庭訪問して、10人以上は会えた。母親は、「出てくるのは無理。」と最初必ず言う。教育相談やカウンセラーの元を最初一回は行ったが、後は、親ばかり相談に行っていたということが多し。しかし、出てこられる人は予想以上に多かった。彼等は、必ず「失敗に懲っていないのか。無駄なだけだ。」「未来が変わるはずがない。」と言う。しかし、母親にプログラムを具体的に説明し、今まで失敗したけど、何か変わった試みがあるな、と感じてくれれば出てきてくれる。

君達は必ず代わる。過去の失敗や未来を愁うのではなく、今だけ考えればよい。疑いながらも出てきてくれた多くの仲間が上手くいっている。また、アミーゴを派遣して8割は外出するようになった。家庭訪問して診断した結果、ひきこもりじゃない人もいた。いわゆる社会的ひきこもりでない。治療が必要な人、統合失調症、発達障害等。最初の見立てが大切。統合失調症だと診断すればすぐに病院へ、薬物療法が必要である。数ヶ月で外へ出られるようになった事例が多い。最初の見立てを誤ると手遅れになる。家族がアパートに逃げて、6年間話できなかった人が、数ヶ月で会話できた。専門家による見立てが必要である。

勿論、長期にひきこもった結果2次的にいろんな症状が出る。対人不安や恐怖、そして、時には妄想状態になる。我々は、1週間でもこもっているとしんどい。3、4日間でも会社を休んだあと、出勤するときの憂鬱を考えてください。

専門家の診察や関与が初期に必要です。ただし、治療だけで、薬だけで良くなると考えてはダ

メです。医療化してしまったらダメである。一時期、ひきこもりは教育化、そして、次は心理化されてしまった。1990年半ば、ようやく精神科医がタッチし始めた。医師の対応が遅れた。その結果、20%くらいが慢性化した。教育化、心理化、そして、今、医療化の問題が危惧される。ここで間違ってしまうと長期化し、ひきこもり期間が10年になったりする。人間関係をはぐくむ総合的取り組みが必要だ。

一人でいるとしんどい。特別の能力ある人以外は、しんどい。2年、下宿にこもって、バイト以外は本ばり読んでいた学生がいた。2年後、もうダメだ。みんなとコミュニケーションをはかるのもしんどいと思ったのが、一人でいるのはもっとしんどい、すごく力がある。耐えられない、訴えた学生がいた。

10年間、お金をまったく稼いでいない。経済的に両親に依存状態にある若者が多い。お金を軽蔑したらダメ。2～3年すると、ひきこもった状態で安定する。それが10年以上続き、経済や健康状態の破綻が引き金で事件が起こった。父母のケアが必要となる。福祉関係者の関与が重要となる時期だ。

第一段階での専門家の見立てがはっきりしたら、二次的に生じる様々な症状の治療の後しばらくして、そこからアミーゴの出番だ。精神状態を確認せずに、メンタルサポーターを送ったら大変なこととなる。マスコミですばらしいカリスマカウンセラーともてはやされていた人が殺人罪で起訴された。無理やりひきこもる若者を家から拉致し施設に監禁状態にして、死亡させた事件だ。それだけ判断は難しい。

まず最初は、親子だけの密室、閉塞環境にある状況を断ち切ることを目的とする。兄弟の深入りはダメ。負担を感じすぎる。逆につぶれる。兄弟に話し相手をしてくれと頼み、兄弟が失敗の責任を感じて自殺したケースもある。第三者の方が良い。第三者、そして、ちょっと年上の人が良い。表面的な付き合いからスタート、あまり無理をしないことが肝心。過度の密着状況を断つことだけを考える。

アミーゴの派遣は、週2回、1回3時間、1時間1500円を基本とする。何をしたらよいか、最初やりたい勉強、同じ趣味を探す。一緒に買い物を出れば成功。欲しい物を親に買わさない。親と相談、半年間で、9割の人がいったんアミーゴと外出するのに成功。アミーゴ、けれども本当のアミーゴではない。居場所へ行くための手段、安心の運びやサン。居場所にアミーゴと一緒に来てくれて、気の合う人が見つければほぼ成功。居場所に定着すれば成功。しかし、それでも全てを解決したのではない。居場所は、アミーゴの会だけでなく、県下各地にある居場所で、その人に合うところへ連れて行ってあげる。それがアミーゴの仕事。

第二段階は専門化の役割。5年間家にこもった人が外に出ようとして、ドキドキと胸が躍りパニック状態に、不安感が圧倒し、周囲のひとの話し声が自分の噂話をしているように思い走り逃げ出してしまう。本人が一番その苦しみをよく分かっている。視線恐怖などいろんな症状がでる。2～3ヶ月、薬物を使うことも躊躇しない。家族はカウンセリングを受けるのもよい。技術を持った専門家に、母親の不安を和らげてもらうとひきこもる若者はずいぶん楽になる。両親には自分達の人生を楽しんでもらう。大抵の親は十分すぎるくらい子どもに手をかけている。もうそのくらいでいいです。安心して眠れる場所と食事があれば十分です。あとは、手放してくれと言っている。

第三段階は仲間作り。若者の興味は多様です。居場所もひとつの場限定する必要はない。ただ、黙っている時もある。ちょっと気に入った人が、何ヶ月後かに出来る。アミーゴの会では、

コミュニケーション能力をつけます。言語だけでない。絵を通してても良い。言葉でなくてよいのです。基本的に、心が通じ合う人間関係ができればよい。楽しんでほしい。アミーゴの会では食事会、写真展、ボランティア活動などいろんなことをやっています。行事をある程度定期的に入れておく。

ただ、ソーシャルスキルトレーニング、我々の場合キャンパススキルトレーニングですが、ごく基本的なロールプレイなどのテクニックを用いる。

第四段階は就労です。最初は、小遣いを得る手段であってよい。就職探しは、社会情勢に左右される。ハローワーク、ジョブカフェなどの協力が必要です。障害や長期留年といったハンディを背負った学生の就労支援はまだ十分ではありません。大学の弱点です。これから開発していかないといけない。

この間、一人の若者の仕事探しにハローワークについて行きました。すると、「いい年をして大人について来てもらった」と周囲の人がからかっていると、過度に敏感になってしまったことがありました。失敗でした。若い人を一緒に行かすべきだったと後悔した。ワーキングシェアも大切だ。受け入れ側の理解を促進する努力と、信頼関係の構築が必要である。

病院で治療していようが、その人の状況に合わせて仕事をすればよい。病院で治療していると、障害者訓練書に行った方がよいと、かつては言われました。その当時は、治療していることをごまかせと言っていました。最近は、徐々にであるが理解が進んでいる。ちょっとずつ壁が取れてきている。「精神科で治療していて大丈夫ですか。」と電話がかかってくる。「自分の目を信じてください。」と言う。勿論、相手の立場も解しなければなりません。

家から出ることが出発への第一歩です。それから居場所、作業所、NPOなどへ。定職にたかなくとも、まずアルバイトからでいい。自分の小遣いだけは自分で、それでいい。

窓口：大学生、地域、中学校、高等学校でも同じような問題がある。手段なのに、目的に摩り替わって、目的見失っている。目的を見つけれない人もいる。

【質問】

家族：統合失調症、どういう病気なのか。

宮西教授：病気の始まりは人間関係で敏感になる。自分のことをうわさしている、悪く言っている等と思い込み、他者との交流を絶ち、こもっていく事が多い。統合失調症の場合、治療法は違ってくる。

家族：人と話をするのが苦手ではなく、人を信じられなくなっていくのか。

宮西教授：悪意を持った声を実際聞こえ恐怖を感じる。実際には悪意を持っていないが、信じる状態、妄想状況になる。なぜ、悪口を言われなければならないのかと怒り、スパイされているなどと信じる。ただし、幻聴や妄想は統合失調症にのみ出るわけではない。様々な状況下で、例えば、海外へ行った時に責任ある立場になったときなど、特殊な環境下で生じることもある。

家族：1時間1500円というのは、行くのか、家に来てくれるのか。

宮西教授：1時間1500円で一応1回3時間。2時間に減らしてという学生もいる。我々の大学では、家庭教師の場合、学部生で、大体1時間、2000円、院生で3000円である。アミーゴを派遣できるのは、和歌山大学から1時間以内のところまでである。

県下に拠点を作ろうとしている。大学以外では、精神保健福祉センターなどでサポートの養成

を始めたが今まだサポーターは少ない。不登校の生徒への派遣も依頼されている。

家族：知らない土地の方が良いのか。

宮西教授：そういう人もいる。中学校から不登校、東京の学校で上手く行ったケースもある。

基本的には、家の近くの方がよい。限度がある。大検、今は高校卒業資格であるが、専門とする塾が出来てきている。良いところも、悪いところもある。経済的負担がかかる。和歌山で出られないが、同級生や知人の目に止まらないところでは出れるようになるということもある。

こちらには、メンタルサポーターない。

和歌山市では、NPOなどが実績を出している。我々は不登校まで対応できない。サポーターが少ないというのが、一番の課題。県内の大学は少ないからだ。高野山大学、高専の学生さん、暇な若い人というと、叱られるが、学生さんである。各拠点で、活動してくれる人が4～5人くらいいればよい。

家族：病院へ連れて行ったほうがよいのか。病院へ行って見るというのも迷う。波がある。普通の時は、普通。

宮西教授：体制として、学校ではスクールカウンセラーと先生がまず相談にあたってくれる。病気が疑わしいときは、病院に紹介してくれるので気軽に受診して欲しい。家族相談だけでもよい。我々の大学で先生や仲間が、病院の精神科で見てもらった方がいと親に進言して叱られる場合がまだある。啓蒙活動が大切である。教育相談、スクールカウンセラー、そして、医師の連携が重要だ。医療も閉じこもっているときではない。それぞれが、すべてを抱え込んでしまっている。抱え込んでしまっただけでは終わりである。連携が必要である。

家族：今、不登校多い。先生、関わり方勉強していないのか。

宮西教授：勉強している。研修会も多い。しかし、専門家でないとは分からないことも多い。例えば、アスペルガーは今一番研修会で勉強されている。しかし、経験で得た知識が必要だ。医療、教育、心理の協力体制が必要だ。

家族：先生が、相談するところあるのか。

宮西教授：不十分である。これから出来ないといけない。

家族：卒業した後、こういうところあると言ってもらえたら安心する。

宮西教授：大学でもそうである。大学でケアやサポートをつなげないと、孤立して、悪化してしまう。避けないといけないことだ。我々のサポートセンターではそのつなぎを目的としている。子ども、成長していく、義務教育から、高等教育、そして、社会へと一連のサポート体制が必要だ、日本はまだ整備されていない。

幡川氏：【引きこもっていた頃の僕】

ひきこもったきっかけは、中2の冬、精神的な面で、学校に行けなくなった。周りの視線が気になって、お腹が痛くなって下痢。内科で検査したが、何も無い。親は、精神的な病気と病院で聞いていた。自分は、なぜか分からなかった。病院へ行っても治らない。学校へは行っていたが、視線を感じて下痢になる。学校は好きだった、中3夏までは、放課後、クラブに行ったりしていたが、中3から行かなくなった。友達の家へ行っても、お腹が痛くなって、下痢になり、友達のうちへ行くのも無理になった。高校受験をして、入学式には行った。担任の先生が頼んでくれて、2日くらい、中学校の友だちが家まで迎えに来てくれた。高1から、ひきこもっていた。

はじめは、色々考える。なんで、こんな状態になったのか。どうしたらよいのか。ボーっとしている毎日。途中から、生きていても仕方ない。死にたい。電車を見ても飛び込めない。死ぬのも無理で、ひきこもっていた。親とも会話していなかった。近くの、5分くらいの本屋へ行くぐらい。欲しい本だけ買って帰ってきた。親に話しかけることも無かった。ご飯だけは、食卓に行って、無言で食べて部屋へすぐ戻った。ひきこもる前にパソコンを買ってもらっていたので、パソコン、ゲームをしていた。インターネットがきっかけで、過敏性大腸炎が分かった。

同級生が、高3になる年、みんなより遅れるのはイヤ。今から1年から行くのも遅れている。人見知り状態、年下の子と授業するのは考えられなかった。親が、理容室をしていたので、美容師の専門学校へ行くことを考えた。母の行っていた美容学校に話を聞きに行った。先着順で入学だった。その場で、外へも全く出てないので、ちゃんと登校できるか分からないことを了解で、受け入れてもらった。心療内科にかかり、薬をもらって飲んでみたが行けなかった。その後、先生に放課後に来ない？と言われ、はじめの1週間くらい、母親に電車、バスで、送ってもらった。そこで、みんなが終わった後、教えてもらっていた。授業が終わった後、たむろしている学生がいた。スリッパを入れているところに人がいることだけでも行けなくて、学校の周りをウロウロして、みんな帰ってから学校へ、半年たって夏休み明け、自信が出てきてみんなの中へ、昼間、授業に行けるようになった。

人と話したことがないから、何を話していいのかわからない。たわいもない話が出来ない。あいつはなんだ。一人でむすっとして座っている。こっちから話をするのは無かった。やがて、多少話できる子が出来ていった。これではいけない、人なれしてない。対人恐怖、視線恐怖、田舎、人の顔見る、いやだった。地元じゃ出て行けない。考えたのが、大阪まで出て行くこと。和歌山と違い、大阪に行くと、たくさんの方がいて、自分のことしか考えていない。気にしないようになっていって、恐怖はなくなった。

2年目の夏、就職活動時期、他の人は、面接に行ったりしていた。良いところは、夏の間は試験済ませていた。自分は就活の事をまったく知らなく、遅れを取ってしまったので、また、ひきこもりになってしまった。

家にいても仕方ない。人に関わるのが苦手、外に出て行くのは大丈夫。パチンコ、スロットで貯金が、底を尽いてひきこもっていた。ふと、思った。ひきこもっていても時間の無駄。バイトへ行ったが、人と接するのは苦手だった、自分から話しかけられない。初日、初めて会話をしたのは、3時間くらいたってから、向こうから声をかけてくれた。よい人達で、仲良くなった。でも、バイト以外はひきこもっていた。将来への焦りは消えていて、18歳のときに感じた、みんなから遅れるという感覚、そういう感覚もなく、罪悪感もなく、ボーっとしている。親は、エルシティオに相談に行っていた。エルシティオに行くことは、嫌だった。1回だけ来てくれということで、一回だけ行った。一時間かけて行きたくなかった。行かなくて、ひきこもっていた。バイトをしながら、これではいけない。ちゃんと就職した方が良いが、人慣れしていない。

エルシティオが、コーヒー豆の買付を宮西先生に頼んでいて、エルシティオのスタッフが一人行くことになっていた。それについていけるという話があった。自分にとって、きっかけ、最後のチャンスだと思った。行ったはいいが、和太でいく人達と会ったのは1回だけ。10人中、7人くらい先に行っていて、3人後から行った。3人の少人数だったから、話しやすかった。現

地に着いたら、気を遣ってくれるが、初めワイワイ打ち解けあうという感じではなかった。帰ってくる間際には少し打ち解けていた。帰ってくる途中では、仕事をしないといけないと思った。バイトは行くけど、ひきこもっている状態だった。1～2ヶ月続いた時、母が話をしようと言ってきた。「これからどうするの？」自分の耳の痛いことと言われると部屋に入っていた。その時は、手を引っ張られて、座らされて、「どうしたいのか。」母も泣きながら、話していた。はっきりさせないとアカンと思った。大学生もいいなと思っていた。でも、中2で学力は止まっていた。勉強も嫌。知り合いの美容室がスタッフを募集していて応募するかしないか、人生で一番悩んだ。2日間悩んで連絡をした、でもその美容室は、もう採用する子が決まっていた。そこで、大検をとって大学へ行きたいなと思って、そこでまず、大検を取る必要があると思った。大学入試(普通の試験)は大変だが、調べると大検だけなら意外と取れそうだった。さらに調べてみると社会人入試が、21歳以上で、社会人経験が3年あれば受けれることが分かった。急いで大検とって、グアテマラから帰ってきた後、アミーゴのサークルに遊びに行っていたので、社会人入試では小論文の試験があることがわかった、そこで文章の書き方(起承転結)を宮西教授に教えてもらって、試験を受け無事に大学へ入った。

【質問】

家族：どうでも言いと思っていた時期があって、バイトに行こうとしたのは何かきっかけがあったのか。

幡川氏：18歳の時に同級生は来年大学生になると思った、これ以上同級生から遅れを取るの嫌だった。18歳の時期に引きこもってれば一度は、皆考えると思う。状況打開のきっかけの一つである。後は、22歳の時、同級生が大学卒業するとき、その他はきっかけがなかなかないと思う。その後の年齢になってくるとアミーゴとかじゃないと刺激が与えられるものはないのではないかと思う。負けず嫌いというのがあって、美容学校へ行った。外へ出るのは可能だったので、バイトをした。話はせんでもいいわ、仕事だけをしていたらいいという感覚でいた。コンビニエンスストアのバイトをしていた。普段、声を出さないが、大きい声を出していた。

宮西先生：母親と話してグアテマラへは行けるかなという話をしていた。実際は、無理をして皆にあわしたり、熱を出して、倒れてしまったりもした。

幡川氏：食が細く、好き嫌いもあったので、あまり食べれなかったりした。夜、深い話をする機会があって、自分以外にも悩み抱えている人がいることを知って楽になった。ひきこもってから、心に埋めきれない(満たせない)穴がぽっかり空いていた。親の愛情が、それとも別なものかなのか分からない。他人の愛情でも埋めきれない。大学へ入って、グアテマラに行った人との交流をするようになって、ぽっかり空いていた穴は満たされていた。色々過去を振り返って、ひきこもっていた時間は無駄ではなかったと言える。宮西先生や、他の仲間に出会えた。ひきこもっていた頃の自分に何か言いたいとすればパソコンを持っていたのだから、もっと活用して時間も有り余る程あったのだからなにかスキルを身につけていればよかったんじゃないかと言いたい。

家族：若い時にしか出来ないことが、今できてないから、かわいそう。

幡川氏：高校生活は楽しいだろうなと思うけど、そこに戻りたいとは思わない、そう思った所で戻れないからなんとも思わない。

家族：修学旅行、無理にでも行かしてあげたら良かったかな、かわいそうなことしたのかなと思

ったりする。やりたいことがあれば、やったら良い。同じ年頃の子と遊んでないの、かわいそう。

幡川氏：ひきこもってから、音信不通になった。不意に合っても、話しにくい。同窓会に誘われたが行かなかった。時間が経った現在誘われれば、嫌でない。今年の正月に小学校の時のサッカー部仲間にサッカーをしよう誘われて行くつもりだったが、新年のバイトが忙しく疲れていたため行けなかったが、今度またお盆にみんなで食事をしよう約束をした。

家族：ひきこもっていた時に、親にこうして欲しいとか思うことがなかったのか。

幡川氏：助けて欲しいと思わなかった。ひきこもっていた時は、脱出したいと思わなかった。落ち込んでいた。ひきこもっていた時、食べたいものがあれば言っていたようで、それを母が作ってくれていたという話を母がしていた。

家族：娘がいると、空気が重い。自分勝手になっている。隣の部屋に行ってくれないか。うっとうしいのか、求めているのか。

幡川氏：うっとうしかったら、親のいないところにいる。ご飯作るのは、自分でできないことないかも知れないが、めんどくさいことはしたくなかったので、そこは仕方なく、食卓へ行っていた。部屋まで持って来てくれたりしないので、食べに行くしかなかった。でも、話はしたくなかった。

家族：周期は無かったか。波は無かったか。

幡川氏：波は無かった。喋りたいと思わなかった。親がどこかに行く時はどこに行ってくると言ってくれたが返事もしなかった。あと、ご飯出来たとか以外は、喋らなかった。

家族：どこかへ行く時とか、今日は、いい天気だとか、そういうことだけ喋るようにしている。

幡川氏：自分の時は、14～17歳の間は、親に頼ってしまうところがあったが、20歳くらいになると、どこかへ言っても、どうせ帰って来ると思っていた。

宮西教授：お母さん方で、ひきこもっている子供に気を遣っている場合が多い。兄が、彼女を連れてきたら、ショックを与えるのではないか、大学に入学した兄のことを言ったら、顔色が変わるので、大丈夫か、とよく聞かれる。普通にしてくださいと言う。こちらで、フォローします。

実際、家から逃げてきた若者の世話を何度となくした。親からきく家庭での振る舞いとずいぶん違うのに驚く。彼らは家から離れると何でも出来ることが多い。親御さんは、ひきこもっている娘、息子を心配している。気にせず、普通に他の兄弟に接するのと同じように対応してもらおう。海外旅行、行ってください。気兼ねしたら、本人もしんどい。親が気兼ねすると、負担になる。ある年齢になると、手放して欲しいという話をする。

家族：旦那と映画、子どもが、自分の思うものを見てきて欲しい。親の行動を自分の思うとおりにしたい。

宮西教授：親を自分の思い通りに動かそうとする。若者のペースに巻き込まれたらダメ。自分が見た映画の話をしたらよい。親の愛情は伝わっている、普通に夫婦で楽しめば良い。ペースに巻き込まれたらダメ。何処から自立させるか。自分の気持ちを抑制するのか。親がつぶれるとダメ。同じ部屋で閉じこもっているのはダメ。子どもに対して、冷たいのじゃなく、親が、何処まで我慢できるか、である。

家族：何処まで手をかけてよいのか。

宮西教授：親のペースを崩さないこと。子どものためにするのでも、親の勝手でもよい。犠牲にな

って、自分を殺してやるのはダメ。

支援者：最近、実習に来られている人がいる。ちょっと、家を出て来る時、家が変わった。実習に来だして地域の公共施設等、出始めた。

メンバー：親との会話が家の中で生まれたり、行き始めて応援してくれるようになって、少しずつ、関係が変わってきた。

支援者：家にいて楽になったか。

メンバー：家の会話がが増えて、怒らなくなった。

支援者：家の空気の流れが、すごく新鮮なものに入れ替わっているのではないか。

家族：出るきっかけがつかめない。ハート、自助も行かない。きっかけがつかめない。

支援者：2年間、親と会っていて、最近、出てきてくれて、頑張っている。親御さんのところへ行くことで、風を持って行っているのかな。何でもやってみたら良いのかなと思う。

居場所も引っ越して、広くなったので、ぜひ、覗きに来てください。

家族：本人が出て行けない場合は、どうするのか。

宮西教授：本人が、拒否せず黙っていたら出かけてゆく。第三者が入ったほうがよい。派遣する人を途中で変えないといけない場合もある。他人が平素浮く状態にある家庭に入っていただけ、母親との話して終わるだけでもよい。3ヶ月は頑張る。そうすると何か変化が生じる。

家族：前もって来ると言うのと逃げる。隠れている。

宮西教授：隠れても良い。家へ誰か来てもらうだけでも変化がある。

家族：子どもがひきこもりだしてからは、人を呼ぶの躊躇する。

宮西教授：母の付き合いは、普通にしたらよい。本人の同級生は、相手が意気揚々しているときはダメ。時期による。本人に無関係な人はよい。

家族：他の人が入って来たら良いか。

宮西教授：本人、嫌だと思うが、続けてもよい。普通にしたらよい。

家族：友だちを呼ぶ場合、予告した方がよいのか。

宮西教授：普通に言う機会あれば、言えばよい。父母の人間関係は普通にすればよい。

家族：友呼ぶのを避けていた。嫌だろう。

家族：顔あわせたくない。兄弟が来ても、部屋に逃げ込む。よそへ逃げるの余計良いのではないか。マンガ喫茶に行ったりすると、余計、良い。

窓口：すでにそのステップから遠いところにある家族もいらっしゃる。本人に気を遣って生きている。

宮西教授：彼等は、親が普通にしてくれることを内心は願っている。

窓口：機嫌が悪くなって、暴れる。親との接点も取れなくなる。

宮西教授：最終的には、隣に住まないといけなくなる。どこで踏みとどまるか。アミーゴなど、第三者との関係がはじまっていれば大丈夫、逃げ口があれば大丈夫。唯一のチャンスである。

メンバー：親子関係が難しい。本人も親がうっとうしいと感ずることがあるが、親は、どんな時、本人をうっとうしく感ずるか。

家族：忙しくしているのに手伝ってくれない時、家の用事してくれない時、助けて欲しいと思うことがある。うっとうしいとは思わない。

メンバー：親は、子に対して、ああして欲しい、こうしてほしいと思うことがある。父親は、自分に対して、うっとうしいとか、何考えているのかとか、親からの暴言がある。親には、何も

言えない。親から言われるのは嫌。自分の人生考えていないのに、今さら、何を言っているのかと言われる。

家族：子どもに言っている。いくつになっても、ひきこもっていたこと、言われるから。そういう言葉から逃げられない。今、居ることを自分が選んでいるから、何も言えない。それを覚悟しておきよと言っている。子どもの人生、出て行って欲しいけど、それは、待っている。生きたい時は、行ったら良い。私は、出す。

メンバー：居て欲しくないと思うときあるか。

家族：たまに、一人の時間がほしいときはある。アパートでボーっと一人になりたいと思うことはある。うっとうしいと思うことはない。

宮西教授：元気で、外へ行ってくれたらいいのにと、親は心配している。

家族：親は、子のことを大切にしている。

家族：口に出して、言うことと、本当の気持ちは違う。

家族：親も素直になれていない。言いたいことを言えない。年配の人ほどそうである。

家族：時々、自分でも、冷たい方であると思う。血のつながった仲でも、相性合わない人いる。うっとうしいと思う時があるけど、いなくなってくればよい。親だから、面倒見てあげなければならないと思わない。母としては冷たいかもしれない。親子だからと言って、必ずしも、交わらなくて良い。

メンバー：ブラブラしているのに、よそに行かなくてよいという。

宮西教授：経済的、自立を考えなければいけない。子どもは、経済的自立を考えなければいけない。親は子どもに口を出すけど、無視をしてもよい。経済的自立は必要。自分のやりたいことはして欲しい。欧米では高校を卒業したら、大学は自分で行くのは当たり前。日本は面倒みがいい。4年間以上ゆっくりしたければ、自分で稼げと学生に申し渡すことにしている。ある程度、距離をおける立場が必要。言葉は、ある程度、無視。夫婦でもそうである。

メンバー：親が、子に自立を求める時は、どんな時か。

家族：親がいなくなったときのこと、親がいなくなった時、食べていければよいが。兄弟に負担が行かないかと思う。

宮西教授：心配で、死ぬにも死ねないと言う親御さん多い。そこまで心配しなくても、食べられないことはない。日本を信じてくれないかという話をする。必要になれば、子どもは変わる。過保護すぎる。子ども達は、生きていける。なんでも余分に与えてはいけない。自分達の力で自由に生きたらよい。心配しても仕方がない、というのが基本姿勢であって欲しい。

窓口：色んな人に、開放しておくことも必要である。閉塞的であれば、気付いたら餓死しているということもある。どっかで繋がっていれば良い。

宮西教授：社会保障がなくなるときは、日本自体潰れてしまっている。時代は、変わっていく。そんなに悲観的ではない。若者が変えてくれる。子どもが自立していないので、死んでも死に切れない。それはない、大丈夫。そこまでの国になったら終わり。社会サービスがあっても当然。これ以上求めても仕方がない。しかし、お母さん方は心配される。その心配を解決する、福祉が行き届いた社会を作っていくといけない。若い人達は、現在社会に反発している。これを良しとしなければいけない。若い感性と、能力、若い人でないと出来ないことがある。

幡川氏：見えないけど、レールは敷かれていた。そのために、塾に行かされていた。無言のプレッシャーがあった。

ひきこもっていたから、不足の場合、対応できるという面もある。

窓口：経験したことが、強みになっていく。

幡川氏：ひきこもっていて、悪い人はいない。

宮西教授：家の中にこもるのは避けて欲しい。本人の出発にならない。3年経てば、その環境に適応してしまう。

幡川氏：インターネットの画面上の付き合いで、その後、直接話す。いいことである。

宮西教授：インターネットの弊害もある。女性にだまされるとか。会って、お金を巻き上げられて、警察ざたになったことも、リスクがあることを知っておかないといけない。若い人は、この危険に対する現実感にかけ。そのとき見えている範囲しか分からない。

人間関係は、適当なのが良い。人はそれほど責任持ってくれない。負担になる束縛はいけない。

ゆっくりと信頼関係は出来る。

メンバー：親の言うことは、向こうが知っていること多い。自分が失敗しないようにと思っている。

宮西教授：親は知恵がある。聞くべきである。親が語ることは、自分たちが歩んできた道程、無難な道、賢明な道である。いつか親から離れなくてははいけない。親も子を手放さなくてはならない。

幡川氏：聞くだけ聞いておいたらよい。

メンバー：親も体調悪い。経済的に苦しい。10代までのことは許してもらえた。20歳を超えて、これからは、そういうわけにはいかない。経済的に苦しいのが、精神的な余裕を奪ってしまう。喧嘩しても良い。言ってみなければ、分からない。あんまり先のことを考えると、自分のするすべがない普通の親だったら、仕方ない。我慢の限界だったら、言うべきである。傷ついても、腹が立っても何も出来ない。言われたことは、間違っていない。本人も、どっかで耳に入る。他人だと喧嘩しなくても、親だと喧嘩になる。勝手に傷ついていた。

宮西教授：第3者を作ったほうが良い。親子は永遠に親子である。

メンバー：変わるとしたら、自分である。

宮西教授：まず、経済的なことを考える。家族の経済的状況、今の経済的なものを考慮。どれだけ援助してもらえるか考えて取り組みを開始する。親子の経済的状況の把握が大切。大学生40%奨学金もらっている。金銭的な余裕を得る具体的な方策が必要。金銭的余裕がないと、心の余裕ができない。

窓口：親子の中で、きちんと会話をしないとけないということを言っている。自立してきている。

メンバー：ハローワークへ行って相談する。ちょっとくらいの心配があるのは仕方ない。でも、怖かった。家を出る話になって、いざ出るとなったら割り切れない事情が出てきた。自分としては、ベストでも、用意された階段を一つずつ降りるより、一回、飛んでみてからの方が、本当は出来たのに、出来なかったと思うことがない。そこに乗ること考えると、人が大勢関ると、そこにはまってしまう。ステップにこだわらないと関係ない。自分が分かったことは、それ自体は良かった。自分で何から何までやっていないと、その援助が受けられなくなった時の不安が出てくる。人付き合いが苦手でも、ただ居るだけならできるかも、よっぽど大きい失敗がない限り、大丈夫。知っている人が居ないの当たり前、失敗怖かった時期、長かった。時間もかかった。ちょっと、何か動いていたら、きっかけは来る。

宮西教授：良いことだけとか、悪いことだけというのはない。

メンバー：親敷いて来たルールを自分から取り除く、別の形、ないのか。

宮西教授：ルール上を歩むのは楽。きちり保障されている。しかし、親が、社会が敷いたルールは、いつか切れる。出会う人も違えば、生き方も異なる。自分は何をすべきか疑問を持った時、出発である。

メンバー：自分が社会に踏み出せない。

宮西教授：親の良しとしたルールが、勿論自分に合っているときもある。

メンバー：社会に出れない自分、悔しい。自分がどうして、社会に出れないのか。二度と同じ失敗犯すのではないか、社会に出ることを閉ざしてしまう。

宮西教授：一人でいいから、信頼できる人、相談できる人が居ればよい。今すぐ就職することは必要でない。一挙に解決できない。家から一歩外に出ることを考えよう。

(6) . 社会体験活動

紀南障害者就業・生活支援センター

昨年度～ (今年度就労)	2名
-----------------	----

7月～	1名
9月～	2名
2月～	2名
合計	5名

就労訓練体験後、就労した青年の感想

良かったところは、1日をとても長く感じるほどに暇をもてあますことがほとんど無くなった。他人と接する機会が多くなったことで、徐々に普段の会話など慣れてきた部分があった。それまで毎日似たような時間、空間で過ごしていた為に、多少、気分転換にはなった点もあった。朝から仕事が始まるため、それまでまばらだった起床時刻が決まった時刻になっていった。ちょっとした軽い運動や考える場面もあるので、それまでの単純なサイクルの生活からすれば刺激になった部分もあったかと思う。朝から夕方まで作業を行うため、それまでのサイクルが変わり、時間に縛られる点がある。集団での作業になり、内容もそれぞれ、役割分担などになるので、簡単な会話動作など、コミュニケーションを取らざるをえなくなり、それらが苦手な人は慣れるまで相当な負担になると思う。集団での行動、他人と接する機会などの経験が乏しい人間にとって、作業所のような場所は通うだけでも相当なプレッシャーと緊張感を伴うと思う。

就労訓練とバイトを経験した青年の感想

とりあえずうざい(うざったい)事が多い。家族にしても、仕事場の人にしても、小さいことから大きいことまで色々言われる。しかし、人間、金が絡めばどうにかなる人が多いと思う。金が全てではない。でも、それがあから生活出来る。あとは、人の判断に任せます。自助会は、ゆるい。時間を守らんでいいというのが前提だから入りやすいのがメリット。デメリットは、その習慣があると待ち合わせに5分くらい遅れてもいいやという感覚が起こって辛い。友だち関係なら何とかなっても仕事だったら、信用を失ってしまふ。このことを就労訓練やバイトの中で学んだ。僕は、周りの人間に恵まれているなと思う。ということは、周りの人間に依存していると思う。おかあに死なれたら、俺も死にそう。おかあに依存していること、そこから抜け出せん。大人になれん。いつまでも子ども。おかあの子どもでも良いけど、普通の人間になりたい。

就労訓練をやめてバイトすることになった青年の感想

私が就労訓練に行き始めた時は、少し異質な雰囲気戸惑ったし、それでも「働くこと」に向けて、やると決めたので、通い続けることが出来たし、その内に他の人とも少しは慣れてくるだろうと思っていたけれど、どうしても、私との違いを感じるが多かったように思う。やっぱり、理解しようとしても分からなかったし、結局、最後は分からなくて当たり前という気持ちになったんだと思う。だから、多少の疑問点は見ないようにした。でも、最初は、それが一番しんどかったし、辛かったところでもある。そう思いながらも、一緒に過ごさないといけないんだなと我慢もしていた。私の場合、家も遠いので毎日続けて行くことは出来なかった。そこが、一番残念な点でもあったけど、ホットする点でもあったのです。

あの時の私には、就労訓練が必要だったと思いますが、やっぱり、そこが障害者施設だということは、くつがえせない事実であり、自分達が安心して行ける場所が他にないということも残念だったし、違う方の施設があってくれたら、どんなに、気持ちが違ったか分かりません。私が、自分でやる気になったのは、「やっぱり、それじゃだめだ」と思ったからです。

青年長期社会体験活動

(和歌山県青少年課)

10月～3月	3名
--------	----

考察

青年の感想にもあるように、ここ数年、障害者枠の就労訓練先のご協力によって、体験活動を進めてきたが、もともとコミュニケーションがとりづらい青年にとっては、訓練先の仲間とコミュニケーションをとることは、更に難しく感じたり、青年だけでなく家族も抵抗感をもっていたり、更には訓練を終えて就労に向かうときの制度上の問題で躓いたり、色々な課題にぶつかった。

当地方では、昨年(平成17年度)から、地域若者サポートステーション事業に民間支援団体が手を上げているが、2年連続採択されず、今後の支援の方向性が、青年のニーズに合わせてすすめていくには、官民ともに知恵を出し合った取り組みの展開が望まれる。

全国的に少子高齢化が進む中、若者の自立支援と地域への定着は、田辺市の将来を考えると、大人が若い人たちに残していく町づくりとして大きな課題である。国の支援制度が、小さなニーズにも応えていけるような仕組みになってもらいたいとも考えるし、田辺市でも、志を持っている民間が、支援を展開しやすいような仕組みについて、行政内部でも関係課が検討していく場を設定して、真剣に考えていかなければならない時期が来ていると思われる。

- (7) . 啓発活動、視察、実習、問い合わせ

(7) . 啓発活動・視察・実習・問い合わせ

○ひきこもりに関する啓発活動

日付	内容『テーマ』	人数
H.18.7.20	東海市社会福祉協議会 第3回ひきこもりセミナー	約100人
H.18.7.8	新宮市 南紀こころの医療・保健・福祉をなんとかしよらネットワーク	34人
H.18.7.9	(なんなんネット)研修会	30人
H.18.8.25	県立こころの医療センター 平成18年度(第44回)全国自治体病院協議会 精神科特別部会総会及び院長・医長・看護部長・看護管理者合同研修会	140人
H.18.8.29	芳養谷地区民生委員協議会	19人
H.18.10.2	田辺地区公衆衛生研究会	13人

○その他の啓発活動

日付	内容『テーマ』
H.18.6.5 H.18.7.13 H.18.8.3 H.18.9.4 H.19.2.7 H.19.3.8 H.19.3.22	青少年育成国民会議 (内閣府委託事業) 平成18年青少年の社会的自立支援モデルプログラムの開発事業
H.19.1.12 H.19.1.12	関係機関視察
H.18.8.3 H.18.9.20 H.18.10.30 H.18.10.31	文部科学省 平成18年度青少年健全育成中央フォーラム
H.18.8.30	和歌山県立南紀高等学校 南紀高校教育対策委員会
H.18.6.21 H.18.11.16 H.18.2.13	和歌山県立神島高等学校 評議会

○視察

宮崎県宮崎市保健所保健予防課	1人
日本福祉大学大学院社会福祉学研究科	1人
千葉県市川市議会	3人
串本スコラ	4人
兵庫県篠山市女性委員会教育部会	7人
愛知県豊橋市保健所保健予防課	2人
奈良県五條市五條子育て支援わーくすぺーす軽度発達障害勉強会	1人

○問い合わせ

兵庫県川西市 ひきこもり親の会(NPO)	社会的ひきこもり支援サークル「とらいあぐる」
青森県 不登校・ひきこもりサポートセンター	滋賀県精神保健福祉センター
朝日新聞東京総局	和歌山経営者協会
情報センターふきのとう姫路	大阪府守口市保健所
TBSサタデーズバット	大阪府和泉保健所
名古屋市毎日新聞	兵庫県東播磨生活科学センター
名古屋市朝日新聞	三重県精神保健福祉センター
三重県四日市市	

(8). 行政局講座

- 1 . 参加者 龍神地区民生委員・児童委員 2 3 名
 ひきこもり検討委員会 6 名
 龍神行政局 2 名
 ひきこもり相談窓口 2 名
- 2 . 日 時 平成 18 年 11 月 23 日 (木) 10 時 00 分 ~ 12 時 00 分
- 3 . 場 所 龍神行政局 2F 会議室
- 4 . 内 容 1 開会あいさつ
 2 田辺市のひきこもり支援の実態報告とネットワーク
 3 閉会あいさつ
- 5 . 配布資料 ひきこもり相談窓口の紹介ビラ
 田辺市のひきこもり支援の実態報告とネットワーク (パワーポイント)
 ひきこもり窓口に関するアンケート (家族回答)
 若者の社会的自立を考える講演会案内

6 . 内容

【あいさつ】(民協会長)

昨年度から、ひきこもり講演会を聞き、民協としてどう取り組んでいったら良いか考えている。担当地区を、個人情報の問題もあり難しいが、実態調査しているところである。

【自己紹介】

【田辺市のひきこもり支援の実態報告とネットワーク】パワーポイント使用

【取り組みの経過】(検討委員)

平成 9 年に議員一般質問とあるが、もっと前から沢山質問があった。この頃に活発に出てくるようになった。

不登校、ひきこもりについて何とかできないか。不登校、小中で増えているということであった。

平成 10 年に不登校・ひきこもり支援の居場所、HAPPY が結成された。

田辺市の対応としては、平成 12 年 12 月の質問を受けて、市長の答弁により、13 年 1 月田辺市ひきこもり検討委員会を設置した。同年 3 月、ひきこもり相談窓口が開設された。

検討委員会が出来た最初、何もわからなかった。社会的ひきこもりというのはどういうことなのか、10 人くらいが集まって考えた。自分でも勉強した。自分らの時代とは違う状況が起こっている。今も手探りである。働くことは、生きがいにも繋がる、就労支援というのも課題である。

[田辺市ひきこもり支援ネットワーク] (検討委員)

ひきこもり検討大委員会は 36 名で構成され、年 2 回、会を開いている。公的機関のほか、民間機関も参加している。積極的に地域、社会の声を聞くということで最重要部分であると考えている。

ひきこもり小委員会は、月 1 回開かれ、現場での声もしっかり聞くという会議である。行政の中で見えないこと、働くこと、本人の実態、状況、こころ、親、地域について、出向いていって何かを学ぶ、現場を大切にしたいネットワークである。

[保健所でのひきこもり支援の役割] (検討委員)

保健所は、妊婦、母子、高齢者など人の一生の心の健康すべてについて、相談を受けている。その中には、ひきこもり、不登校も含まれている。心の健康相談は、月 4 回行っている。田辺保健所は、田辺・西牟婁地域を 3 人 (精神保健福祉士 1 名・保健師 2 名) で担当している。

相談は年間約 400 件、訪問は約 500 件である。不登校・ひきこもりは出会えることが少ない。長期化する傾向があり、社会・家庭など背景が困難な事例が増えている。

[社会的ひきこもりの定義] (検討委員)

6 ヶ月同じ状態が続くというのが目安とされている。明らかにひきこもれば、早く取り組むほうが良い。ひきこもりは状態像で、社会参加といふのは学校・働く以外、遊びにいけるところがあったりすれば、ひきこもりと考えなくてよいのではないか。

病気でない確認のために一度は病院受診も必要である。病気のために出られない場合もある。紀南病院神経科・紀南こころの医療センター・日高病院神経科などがある。南紀福祉センターは子どもを診ている。大人も診られないわけではないが、予約でいっぱいである。窓口で判断迷って引きずるケースもあるが、精神科医でも見極め難しい場合もある。

保健所でも月 4 回、精神科医の相談を行っているので、病気でないかの確認は出来る。知的障害・精神障害は福祉サービス整っている。ひきこもりからは除外される。ひきこもりは福祉サービスがない。

軽度の発達障害はひきこもりに含まれる。福祉の対象になっていない。

[社会的ひきこもりの特徴] (検討委員)

目立ってきたのは、1970 年代後半からである。

不登校イコールではないが、関係はある。不登校を経験して窓口に来るケースも多い。不登校からひきこもりになるというわけではないが、気を付けておかないといけない。社会から要請される部分から男性が多い。女性もいる。

ひきこもりは、家は大丈夫ではなく、どんな家庭にも起こりうる。

今後の課題は、30 代、40 代である。

ひきこもりを続けていると、いろんな症状が出てくる。もともとの病気ではないが、精神科で治療が必要な場合も多い。家庭内暴力は、精神科にかかるか、ひどい場合は、警察を呼ぶなどの対処も必要な場合がある。

ひきこもりのきっかけは、勉強・友達・いじめ・不登校・高校中退・会社で挫折などいろいろである。長期化のパターンはいくつかに集約できる場合も多い。

[よくみられる精神症状] (検討委員)

不登校・・・精神症状ではなく、状態像である。

対人恐怖・・・自己臭（自分の臭いが気になる）

視線恐怖（人の目が気になる）

醜形恐怖（体型、容姿が気になる。少しの薬でやわらぐことがある。）

被害関係念慮・・・妄想まで行かない、あやふや。

ひどくなると被害妄想。確信に至る。（絶対に である。）

強迫症状・・・いろんなことが気になって止められない。例えば、きちんと手を洗えていないのではと気になって10回～20回洗う、お風呂に2時間～3時間かかる等、生活の妨げになる。頭の中で同じことがぐるぐる回って進めない。強迫観念にとられる。

対人恐怖・被害関係念慮・強迫症状は精神科の治療の対象である。

心気症状・・・病院へ行くが何もない。どこが悪いのではないか。大丈夫と言ってもらっても気になる。ひきこもっていると、自分の体に意識が行く。

不眠と昼夜逆転・・・不眠は、働き始める時など困る。

退行・家庭内暴力・・・退行は18歳、19歳の男女が辛くなると赤ちゃんがえりする。母子密着が続くと、複雑になることもある。

抑うつ気分・・・一時的にうつ病になる場合もある。うつ苦しき、回りから分かってもらいにくい。医療にかからないと、自殺に繋がることもある。

医療は、社会的ひきこもりとはっきりしていると、精神病でないので、多少冷たいところもある。長期診てもらうのは難しい場合もあるので、具体的な内容で病院に掛かるといふ少し配慮が必要である。

希死念慮・自殺企図

社会的ひきこもりは、1つの病気ではない。精神の病気でない。不登校とも状態像ということで、共通点もある。

ひきこもりの特徴、はっきりしてくるとよい。

[家庭内暴力の時の対応] (検討委員)

難しい問題である。本人なりの感情表出として、暴力は多々おこる。

第1にしっかり向き合う対応が必要。お互いの焦りがある。親としていかに理解するか、すぐ理解するのは難しい。

第2に課題ある行動であるということである。求めること、満たされないものは何なのか。

とりあえず、避難したとしても、電話やメモを残すなどして話し合いをしたいということ伝えることが大切である。

押さえられない暴力は、家族、本人の安全を守るため、保護、第3者、警察などの介入が必要な場合もある。ただし、第3者の介入はタイミングが難しい。自分達で抱え込まないで、ひきこもり相談窓口や保健所への相談をしてもらいたい。

[家族支援] (窓口)

本人が最初から窓口に来ることは少ない。10人いれば、1、2人である。

家族は、最初、ひきこもった状況が分からない。最初、取り組んでこられた頑張りをお認めるところから始め、少しずつ家族が本人とコミュニケーションを取れるようになる。

その後、家族が相談に来ていることを伝えてもらい、本人に会いたいということ伝えてもらう。ただ、無理に引っ張り出したり、家庭訪問したりはしない。ただ、背景の見極めの資料の や が疑われる場合は、保健所、医師などと共に家庭訪問する場合はある。家族以外に理解してもらうのも困難である。また、親戚や兄弟は責任を取れない。家族会（ほっこり会）はお互い分かり合える場である。自分ところだけかと思っていたのが、同じような話を出来る。また、他者は自分の鏡になったりする。父だけ、母だけ、夫婦で参加される家族もある。

[家族会に参加した感想] (検討委員)

深刻な話をしているが、父母ともあふれるほどに語るという感じであった。

1～2時間ほどいただけたが、とてもしゃべりあえる会であると感心した。

お互い深いところを出しながら浄化されるという感じで、よく考え合っている。

(窓口)

お互い繋ぐ場である。話せるようになれば自分が変わる、心にゆとりが出てくる。家族が成長する、学ぶことが出来る。

家族会に来て変わった父親が2～3人いる。

[本人支援] (検討委員)

ハートツリーはちょっと出てこられるような居場所である。現在人数は少ない。NPO法人になった。もっといくつか出来ればよい。

やおき福祉会の紀南障害者就業・生活支援センターがあり、何年もひきこもっていた人が、スマイルで訓練をしたり、市民総合センターの売店合ピュアで仕事の手伝いをしながら、人に慣れ、何年間かの間に社会復帰した人もいる。

窓口は、当事者を大事にした支援をしている。作業所づくりも分野は違うが、人と関わっていくことを大切にしているという点では同じである。

[過去5年間で3ヶ月以上継続した実件数] (窓口)

3ヶ月というのは、1ヶ月に1回とした場合、2、3回会うことになるので、

大体、背景の見極めが付く。3回以上かかることは少ない。見極めの に該当する場合、窓口でかかえこまずに紹介している。

[相談分類] (窓口)

不登校というには、高校生である。高校は、休学、中退へ移行するケースが多い。中学は、市の教育研究所の適応指導教室と連携をとっている。

[龍神分校の状況] (検討委員)

龍神分校は、他の地域から来る生徒も多く、中学校で不登校を経験した生徒も多い。1番多いクラスで、クラスの3分の1が不登校を経験している。現在は、ほとんどの生徒が通学しているが、その内、3人が、休みがちである。休学や転学で、南紀高校や通信制高校へ編入する生徒もいる。

学校を休みがちになると、家族、母が焦る。そこで、家族の声かけでしんどくなるということがある。龍神分校では、休学や休みがちな生徒には、家庭と連絡をとって、教育相談を受けてもらったりしている。

休学をすると家族は、見捨てられ感をもつ。

龍神分校では、休んでしまう前に、教育相談を受けてもらうなどしている。

龍神は、土地柄か、優しい生徒が多いので、中学校で休みがちでも来れるようになったりするのは、生徒の力が大きい。

他の地域から来た生徒で、民生委員さんが関わってくれて、学校に来れるようになったケースもあった。

【質問】

(民生委員)

うつとひきこもり分かりにくい。

(検討委員)

病名が付いていると、病気のためである。

うつ病、パチンコなら行けるとか、近所、近くのスーパーはダメだが、

遠くなら出て行けるというケースは良くある。病気として考えてあげる方が良い。

(民生委員)

籍は、他府県で、龍神にすんでいる場合は、相談にいけるのか。

(窓口)

基本的には市民である。

(民生委員)

ひきこもりは、家から引き出すの難しい。

担当で、4月から働いてみようということで、現在働いている人もいる。

(検討委員)

なぜ、若者がひきこもるのか。どんな子がひきこもるのか。誰でもひきこもる。いつか、そうなることもあるかも、精神・知的でない、社会的ひきこもり、これからの支援、何かあるような気がする。手帳を持っていない就労の流れ、田辺にちゃんと出ていない。支援の方向探していくのが課題。

(検討委員)

田辺、合併良かった。龍神地区では、いろんなことをやっている。福井の取り組み、龍神分校も熱心な取り組みをされている。

ひきこもりだけではなく、いろんな課題、こういう集まり有難い。

- (9) . 若者の社会的自立を考える講演会

(9) . 若者の社会的自立を考える講演会

主催：和歌山労働局

和歌山県

和歌山県経営者協会 若年者地域連携事業推進センター

演題：「若者の社会的自立を考える」～ニート・ひきこもり問題について～

講師：特定非営利活動法人 育て上げネット

理事長 工藤 啓 氏

平成 18 年 12 月 17 日 紀南文化会館 4F 小ホール

PM2：00～PM4：30

参加者：201人（一般及び関係者）



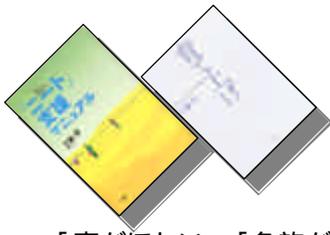
【講演内容】

はじめに

先月、ILO（世界の労働の統計を出すところ）が、先進諸国にニートが何万人いるかというデータを出しました。15歳～24歳までの先進国の若者の数が発表されていました。失業者約8000万人。そのうち、ニート状況、定義としてニートの人は2000万人いるそうです。その先進諸国の中で、そういう状況に陥ってしまった若者が生まれる国の大半は、非常に貧しい国で、そこから働けない若い人が生まれているという報告書が出ていました。よく日本では、「お金持ちの子で甘やかされている」なんて言われています。そういう人がいないとは言わないが、世界基準でみますと基本的には、経済的に厳しい家庭から生まれているというデータがある。別のデータでは、ニート状況にある若い人の6～7割は、保護者の世帯所得がいわゆる低所得収入といわれる家庭から生まれているということも出ています。

フリーターの8割、ニートの7割は学歴があまり高くなく、総じて、保護者の学歴も同じように高校卒業程度という記事もありました。いつのまにか「働かなくても、お金がなくても、保護者の庇護の許で食べられる。」というイメージだけが先行してしまい、気がつくまで「甘やかされた存在である。」なんて言われていますが、実際、雇用・労働などで話される場、もっと言えば、多分、テレビとか雑誌とかでは語られない、余り面白くないので書かれないようなそういう討議の場では、甘やかされた人の中から出てきたのが、ひきこもり・ニートであるという議論は、もう1～2年前からされていません。

昨日から今日の朝まで、私どもの団体の忘年会でした。80人くらいでお店を借り切ってやっていました。卒業生がいっぱい来てくれました。どんな卒業生かというと、働いていて、アルバイトであったり、正社員であったり様々ではあるのですが、ちょっと前までは、「働けないでどうしよう。」そんなに思っていた卒業生がいっぱい来てくれました。お酒を飲みながら話をしていました。「働けるようになって次は何がしたい？」というと、「彼女がほしい。」

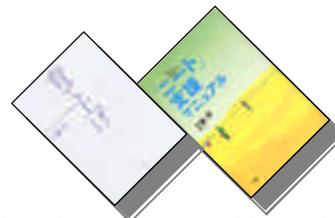


「車がほしい。」「免許がほしい。」とかそんなちょっとした自分の未来に対する希望を語るように、働いた後になったのかな、そんな印象を受けました。最近、働くことそのものが、とっても希望が持ちづらい世の中です。特に、若い世代全員とは言いませんが、あんまり働くことに希望を持たないようにしているというか、持てない。

1つ目は、昔の言葉かもしれませんが、「自分の家族がすごく好きだ。一生懸命働いてそういう家庭を作りたい。」と言われる中で、右肩上がりの経済もなかなか来ないでしょうし、給料が順調に上がるような構造ではありませんので、親父の背中を超えられない。同じだけ働いていたら、間違いなく経済的には、昔で言う親父の背中を超えることが出来なくなってしまった。その意味で、今いる自分の家庭と家庭を維持するためには、自分の保護者が働いた以上の働きなり、給料を稼ぐための努力が必要である。だから、ちょっと希望が見えない。

2つ目は、多少景気が良くなって、有効求人倍率が上がったと言われつつも、1つはそれが都市部だけである。1つは、正規雇用でない、あまりないことを含めると、正社員として雇ってなかなかもらえない層が出てきている。なかなか正社員になるのが大変で、昔は知りませんが、今の学生もフリーターの人も自己分析をやって、自分がどんな人間かを掘り下げなければならない。試験があるところでは、試験対策、SPIとかいう勉強をしないといけない、さらに、履歴書を一生懸命書いて提出しなければいけない。インターネットを通して最初の面接の予約をする。インターネットに、自分のプロフィールを打って企業に送らないといけない。一生懸命精査されているのかなと思うかもしれませんが、所詮インターネットの世界。その後、面接がある。一次面接、二次面接、役員面接があったり、社長面接があったりする。それだけやって、初めて正社員になれる。その間に、20個も30個も落ちる。受かる人は、5個受けて、5個受かる。落ちる子は、20個受けても正社員に拘ると全然受からない状態で、自分なんかだめかなと思ってあきらめてしまう人もいる。

正社員になったからって、幸せな人生があるかと言うと、なかなかそういう情報が入ってこない。「一生懸命働いてもリストラされるんでしょう。」とか、今は会社が傾けばと言うよりは、合併されて、吸収されて、すぐ切られてしまうとか、企業で働く3割の人はうつ病だと言う報道とかもあります。また、自殺される、自分の命を落とす方。たまたま、今、いじめ問題がクローズアップされていますけれど、相変わらず、働かれている方の自殺の数は、減らない。そんなことを聞きますと、正社員になるのはとっても大変で、正社員になってからもちょっと大変そう。じゃあ、正社員でない生き方が出来るのかと言うと、いろんな意味からなかなか難しい。そこで、正社員として働いていく、今日のテーマであります、「自立していくこと。」に希望が持てない状況にある若い人もいます。なりたい仕事についていないと負け組みといいますか、ダメなかわいそうな人生だなんていう風潮が出てきまして、なんとなくやりたいこと探しというのが採り立たされて、やりたい確率についていないと人生無駄日になっている。そんな、学校教育だけではなくて、社会でもそんなことがありまして、「やりたいこと分かんないんです。」とか、「やりたいことが見つかりません。」というそんな相談を投げかけてくる若い人がいます。働いてから探せばよいと思うんですけど、なんとなくやりたい仕事を見つけてからその仕事にアプローチするのが当たり前みたいな、そんな今までとは違った考え方が出ています。ただ、やりたい仕事を探すのを応援するとか、やりたい仕事を見つけましょうとか、やりたい仕事をやっているのが幸せだというのは、多分、間違いないと思うのですが、一方で、やりたい仕事にたどり着く、そんな、そこまでたど



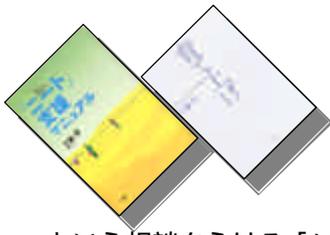
り着ける人の数と言うのは多くないと言うことをちゃんと伝えないといけないのではないか。やりたい仕事につく確立はどれくらいか、なかなか難しい問題です。今まで自分にはやりたい仕事は2つ以上あるとか、自分には適した職場が3つはあるという、そういう風に言ってきた人に出合ったことがないものですから、頭の中では自分のやりたい仕事、もしくは出来る仕事、楽しくやれる仕事は、1つであると考えます。

1つの仕事にたどり着く確率はどれくらいかと言いますと、日本に限れば、日本にある職種がいくつあるか調べないといけない。以前、村上龍さんが「13歳のハローワーク」2600円の大きい本、まだ売っていますが、あれが出されたとき、500いくつかの職種が詳細に書かれていて、「これはすごい。」と言われて、キャリア教育なり、やりたいこと探しに使えるだろうとみんな買ったんですけど、実際、日本に職種の数を調べてみると、だいた3万くらいありました。やりたい仕事にたどり着ける確率は3万分の1である。やりたい仕事を見つけるというのは、心地よい気持ちの中で出来るのですが、一方で、リスクも大きい。ようは見つかる確立はとっても少ないことである。3万分の1と聞いてもよく分からない。どれくらい分からない。3万分の1はどれくらい大変か、そろそろ年末で、2週間もすれば、今年も終わるんですけど、多分、宝くじを買われた人もいます。私は買わないので何とも言えないのですけど、1枚300円、10枚買われるのか、100枚買われるのか分かりませんが、どうせ当たらないと思って買っているはず。でも、家に帰って、お風呂に入ったりとか、一人の時間でベットの上で、当たったらどうしようと勝手に考える。銀行さんが来るか、税金、どうなのだろう、非課税だから分からないのですが、買わなきゃ当たらない、無根拠な気持ちのいい言葉に惑わされ、どれくらい多くの方が宝くじを買って、お金を無駄にしているか。3千円買って当たるのはきつと、300円でしょう。下一桁、でもやっぱり夢を見たいから買いたくなる。ちなみに宝くじで言いますと、100枚買って3万円ですけど、100枚買って1千万以上当たるのと同じくらいの確率です。やりたい仕事を見つけるのと比べるとどうかと思えますけれども、やりたい仕事にたどり着く確率を出しますと、だいたい3万分の1で同じくらいの確率です。

確かにやりたい仕事を探している自分、結構、希望がある。探さしている社会っていい社会に見えますけど、じゃあ、探せなかったらその時のショックは誰が責任を取るのか。10年前くらいかもしれませんが、当時、スチュワーデスになりたいと一生懸命、専門学校を出たものの、5年くらいスチュワーデスの採用0人だった時期、一生懸命応援した人、その応援を受けて頑張ったけれど、採用の数が0だった人に対して、次の目標を誰と一緒に探してあげるのか。希望を追って頑張ることを応援する社会であるという中で、将来に対して希望を持ち辛かったりとか、途中で希望を失ってしまったという若者がいる。途中で希望を失ってしまったという、そんな若い人が日本に大分いるのではないか。実際、話をしていると思います。

自立とは

「若者の社会的自立を考える」というお題目をいただいたのですが、そもそも、私自身、現在、働いていない、働けない状況にある若い人達と一緒にいますと、よく、「自立したい。」

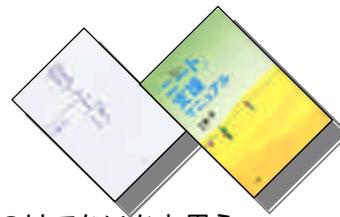


という相談をうける。「いつまでも親の世話になってられない。」若い人から相談をうける。若い人たちは何を考えているかと言いますと、「経済的自立」という意味で自立をしたいという相談を受けることが非常に多い。うちの団体としては、経済的自立を応援する団体ですので、そこを目指してくる人というのが多い。ようは、「お金を稼ぎたい。」という相談です。精神的自立もあるのですが、「精神的自立をしたいのです。」という相談はあまり受けたことがないというのが、受けても私自身、回答はほとんどない。ようは、「お金を稼ぎたい、働きたい。」という相談をうける。一方、それを受けて大人というのは、何を考えるかということ、当然、まずは、「元気になること。」体力をつけたり、準備をすることがとっても必要になる。いわゆる、お金を稼ぐために「働く準備をする。」この流れ自体は全然問題がない。体力があったりとか、スキルを身に付ける。不安を取り除く。そういう活動が最初あって、次に働く準備、スキル、資格を身に付ける。履歴書を書く。面接の練習をする。働く準備があるんですが、あと次は、実際、経済的自立をするために仕事を見つけるというのが、本来のプロセスなんですが、なぜか大人は一回迷います。「経済的自立だけが、自立だろうか？」と迷う。若い人は最初の段階でまず、働きたいという相談を受ける。それに対してこういうプロセスがある中で、大人側は勝手に迷う。最後のところだけで、経済的自立だけが本当に自立だろうか、もちろん、福祉的政策、支援が必要な人もいる。ただ、それよりも、答えのない自立しているものに対しての漠然としたイメージを「大人」が持つがゆえに、経済的自立に何とかしたい「若者」のニーズをどっかで取り違えてしまっている。「自立の意識」にミスマッチが起こっていないのかとそんなことを非常に感じます。

若者の自立へのヒント

自立のヒントというのがありますが、自分からなかなか支援団体とか支援場所に行くというのはしんどい。行ける人であれば行っている。行けないから、こういう状況で長期化する中で、保護者とか、支援者の方が最初に対応して、本人が出てくると思う。そんな自立をしたいという若者に対して、自分たちなりに自立というのは何かを伝えなければ若い人は混乱する。息子さんでも、娘さんでも混乱する。自立してほしいとか、自立支援プラン、自立挑戦プランとかいろいろ出ているんですが、じゃあ、自立っていうとどういう状況が自立なのかと言うのを余り明確に謳っているところない。もっと言えば、社会的自立って何と言われると私自身、答えはないです。自立する上でじゃあ、どうしたら自立なのか伝えなくて自立すべきだみたいなそういう話は人を混乱させる。

私どもの団体はあくまで経済的自立に特化しているんですけど、経済的に自立すればなんでもいいのか、それは、違う価値観があると思います。どっから手をかけるかというところで、月に12万くらい稼げればよいと私の団体は伝えていますが、12という具体的数値、時給800円だったらどうか、何日働いたらいいのか。どんな仕事を探さなければならぬと具体的に、ステップできる。精神的にもたくましくなってほしいと言われれば、何からしていいのか分かんない。精神的にたくましくなるために、「とりあえず、修行に出よう。」と言われても実際、それでは食べていけないという話になるかと思えます。そういう意味では、自立とは何かということをちゃんと自分の価値感として伝えなければ、自立しないと、という



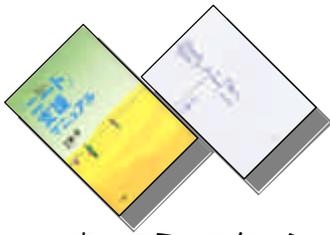
方も何をしたらいいのか分からないとなって混乱してしまうのではないかと思う。

昨年、一昨年、年間 300 件くらい、今は、公的な支援センターも行政の方と連携してやっているの、年間 2000 件くらいの相談をうける。若者支援で、相談の 7 割くらいが母 1 人の相談である。2 割が母と本人である若い人が一緒に来てくれる。1 割くらいは本人が電話して来る。あまり父の影は見せない。2007 年問題なのか、比較的、父の影も見えるようになった。喫煙所なんかで話を聞いてみると、仕事も終わって、やることもなくなったので何もすることがないのでそれより息子のことをちゃんと考えようと思って出てきました。7 割くらいの保護者が母からの相談を受けます。最近でこそ、保護者からの支援をしようという意識が大分高まったんですが、特に公的な機関の中での相談も、保護者の相談をしますというのがあります。3 年前は、親の会しかなかった。保護者のためのゼミナール、親ゼミナールをやっていた。一人 3 万円頂いて、15 人定員、新聞にたまたま載った時、3 万にもかわからず、電話 400 本、全員受け入れたらいくらくらいお金持ちになれたかわかるくらいですが、それくらい、最初、そういうコンテンツなかった。今は、保護者の方からこられて、自分の息子、娘の相談をするのが一般化しました。なぜかと言うと、ニート状況だけでなく、そういう若い人たちに情報を届ける手段が、保護者しかないということが、一般化してきたからです。

つまり、比較的、家庭所得の低い層からそういうひきこもりニートが生まれると言うことが分かったものですから当然その中では、新聞を取っていない、インターネットがない家庭がある。中には、携帯電話も持っていないところもある。そういう時、どうやって情報を本人に届けたらいいかが課題であったんですが、唯一、社会的に比較的孤立的なひとの居場所を知っている人は、誰かと言うと保護者だった。保護者支援がニート・フリーターの入り口であるということが、だいぶ一般化してきました。支援者も、保護者もそうなんですけど、自立してほしいんですって相談したときには、自立ってなんですか。答えを持っていないと何をしてほしいんですかということになってしまいますので、社会的自立はどうでもいい、ただ、自立してほしいと願う以上、自立の内容はちゃんとしておく、支援者であれば、家はこういう若い人をターゲットにこういう支援をしていますと歌わないと、最初から最後まで行かないことが多いのかなと思っています。

2 つ目は、人間ですから、出来ないところか、不足している部分がある。具体的アドバイスをしてあげることによって若い人は自立するのかなと思っています。例えば、よく彼らがにがてだというのは、「コミュニケーションが苦手で、人間関係が辛いんです。」「面接で緊張して話せない。」「職場の上司といるとなんか話さないといけないところでうまく話しできなくて暗い奴と思われた。」とか、「無視された。」とか「自分はコミュニケーション能力」が全然出来ないんです。」という相談を受ける。「コミュニケーションの能力が不足しています。」

一方、企業の採用したい若者に求めるものの上位にあるのが、「コミュニケーション能力」があるんですけど、これも先ほどの自立と同じでどんなコミュニケーションが必要なのか、「あなたの言っているコミュニケーションって、何ですか。」場合によっては、話すこと、聞くことと言う人もいます。企業の社長は千人くらいの会場で英語でパワーポイントを使ってプレゼンテーションできれば、そんなコミュニケーション能力ができる若者を求めている企業さんもある中で、「コミュニケーションが苦手。」っていう人と「コミュニケーションが必要だ。」という人の中で、コミュニケーションに対する理解がミスマッチを起こしている。じ



やあ、コミュニケーションどうすればいいんですかと聞かれたとき、こちらとしては、社会として答えをある程度用意しなければならない。その答えは、画一的である必要がなく、自分なりにこれさえ出来れば大丈夫だからこれだけはやっておけ、伝えておく必要がある。これが正しいと言うのではない。私達は、上司とか年配の方といるのがとっても苦手だというそんな若い人といから、よく、コミュニケーション能力を1分間で上げてあげるとい話をよくする。東京大学の玄田有史先生から教わった方法を冗談で伝えます。これさえやっていれば、大丈夫、これをやりなさい。コミュニケーションなん

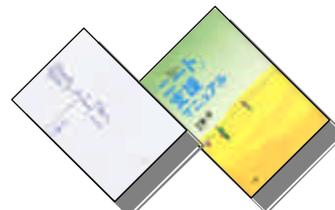
てたいしたことはない。難しいステップが必要だから、よく聞いておきなさいという話でコミュニケーション能力を向上させてあげるんです。

ステップ1、椅子に座る時、前傾姿勢になること、これが大事だ。対面に、上司なり、面接官が座った時、背中を後ろにつけるのではなく、ちょっと前のめりになるくらいにするくらいで十分だ。向こうからすると、この若者、聞く気があるかもしれないと勝手に勘違いしてくれるから、ステップ1、意外と簡単だ。

ステップ2、これはちょっと、ハードルが高いけど、相手が何を話しているのかよく分からない。なんかゴルフの自慢をしているっぽい、もしくは、職場の説明をしているっぽい、でも、専門用語が多すぎてよく分からない。そんな時、とにかく頷いておけ、とにかく首を縦に振ってあげば、相手は勘違いをして、この若者、分かっていると思ってくれるという。前傾姿勢で頷いておけ、「うんうん」言っとけば、だいたい世の中のおじさん、おばさんは、若い者に対して聞いてほしいことが沢山あるけど子どもが聞いてくれないから、よくしゃべるんだ。うなずいておく、それだけで大丈夫だ。これは結構難しいステップ2です。

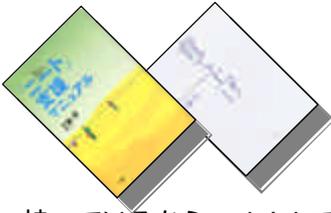
ステップ3、これが1番難しいです。どうしたらよいか、何でもかんでもうんうん頷いていると本当に分かっているのかと勘違いされる可能性があるから。30回くらい頷く間で、1、2回首を横にふれ。「うんうん」やるけど、「ん？」やられると喋っているものもいい加減なものですから、「うんうん」頷かれると、まあ、今日のお客様は良い人が多いな。分かっているか分かってないか分かんないけど、とにかく頷いてくれているからこのまま行こうと思うんですが、「ん？」と首を傾けられますと今日のお客は出来るとこっちは思うわけです。ちゃんと話さないといけないとか、いい加減なことは言えないとか、きっちり喋んなきゃいけないと思うんですけど、ただ、あんまり首を横に振りすぎると、この人分かってないのかなと思ってしまいます。やっぱり30回に一回くらい首を振ったほうがいいそうです。あまりいっぱい首は縦に振るな。ただ、たまに振ると喋っている側としては、ちゃんと聞いている人だ。この人は出来るんじゃないか。この人は本質を見抜いているんじゃないかと勝手に勘違いしてくれるから、前傾姿勢になって「うんうん」頷く、何を言っているのか分かんなくてもいい。とにかく頷いておけ、たまに首を傾げる、「ん？」って顔をする。そうすると相手方は勝手に評価してくれる。こんな良いコミュニケーション能力のスキルのアップの仕方はないな、とそういう風に伝えます。もし、可能であれば、メモをもって、ガンダムでも良いから、キティーちゃんでも良いからとりあえず書いてあるふりをしろといひます。前傾姿勢で、頷いて、たまに「えっ？」って顔で、メモを取っている人を目の前にした時に大人はどう思うか。この若者すばらしいと思いますよ。もちろん、これがコミュニケーション、そんなことないと言う人もたくさんいますけど。

2つ目は、家は12万稼げば、とりあえず、卒業でいいよって言います。12万円っていく



らくらいか。税金なんかどうでもいい、とりあえずどうでもいい。ただ、保護者の方が両方、いますぐ事故で亡くなられて、遺産も何にもない。そんな時、12万あれば、東京で生きていける。3万の家賃、3万の食費、その他、もろもろ12万あればかろうじて生きていけるから。12万円を稼ぐため、最低そこまで頑張ろう。それが、目標だと言います。20万円稼げれば当然20万円稼いだ方がよいのですが、最低ライン12万だ。アルバイトでも派遣でも正社員でもそんな働き方は個人の価値観ですから、「何でもいいよ。」と言います。「悪いことはしちゃだめだけれど、働き方は何でも良いよ。」と伝えます。ただ、自立なんかのいくらかかるかというコストを算出してみますと、だいたい20万弱くらいは、切り詰めても15とか18万くらいどうしてもかかる。ただ、働くことがいっぱいいっぱいの状況でなんとかかろうじてアルバイトで生計を立てている人に対して、20万円なかったら、自立できないよとか、結婚できないよなんてそんなことを簡単に言うような人間は若い人から信用してもらえない。でも、やっぱりお金はあった方がよい。でも、無理して働いて、病気になっても困る。じゃあ、そういう若い人に対してどんな提言を具体的なアドバイスが必要か。彼らが不安に思っている、コミュニケーションってものに対して具体的に何か出来ることを伝えられないのであれば、そういう人は、支援とか相談とかそういう若い人に対応すべきでない。ただ、具体的対応の方法があきらかに間違っている場合は別ですけど、専門家の言っていることと違うとかそういうのは気にする必要がない。まず、出来ることを不安で動けない人に対して教えてあげるといのが大事である。もちろん、これもたくさん、いろいろ方法はあると思いますが。

最近、高校生とか、大学生とか、もちろん、自分のところにいるニートの子とか、フリーターによく、君達の生活、今、稼いでいるお金、月10万でも、15万でもいいんですけど、今日、この話を聞いた10分後に君達の使える生活費のお金をアップさせてあげるよ。そういうふうに言って、具体的にアドバイスするんですけど、15万円しか稼げない人に対して、18万ないと自立できないから、もう3万円分がんばれというのは、かなりしんどい。でも、きっと、生活をしていく上で、15万円しかないけど、君達にもう少し良い生活をする方法ってあるんじゃないのって考えて、和歌山県はあるか分かりませんが、例えば、ツタヤカード、これを使うとだいたい、自分の生活費の向上が出来ます。なぜか、ツタヤカード、33社と提携している。若者の方に視線を落として言いますと、ツタヤでビデオを借りると、当然ポイントがつくんです。スーツの青山で買ってもしツタヤカードってポイントつくんです。日本レンタカーでもつくのです。ガソリンスタンド、どこに入れても同じですけど、エネオスで入れるとツタヤカードにポイント、ガストっていうお店でもツタヤカードたまるんです。その他に、来年になるとどうもブックオフとも提携するらしく、ブックオフで買って、ツタヤのポイント貯まるんです。この中で、コンビニを利用される方もいらっしゃると思います。どうしても、セブンイレブンのお弁当が買いたいというのなら止めませんが、ローソンでもツタヤカード、ポイント貯まるんです。ちなみに、マイレージやられている方、ANA、全日空、あれもツタヤカードとポイント交換の制度ができあがってます。ツタヤのポイントをさらに他のところに振り替えて、例えば、ANAに振り返って、そこから商品券とか、変える事が出来るんですけど、同じ買い物をするので、ちょっと、店を選ぶだけで、選択的に買い物をするだけで、働かなくても、生活費の向上って出来るんです。もうちょっと興味を持った若い人なんかが出てきたときには、どうせ、航空券を買うんだったら、JALカードを



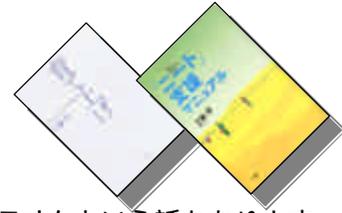
持っているから、JALで使うんでなくて、あえて楽天トラベル使って、JALカードを取りなさいと言います。ヤフトラベル使ったとると更にポイントが貯まるよなんて具体的に教えたりするんです。

自立にかかるお金っていうのは、多分、大人の方が知っている。一人暮らし、だいたいこれくらいかかるって分かる。一方で、自分の限界で、20万円なら20万円、100万円なら100万円、そこしか稼げない、そこが限界の人に対して、もっと稼げと言うのは、かける言葉としてはかなり辛い。体を壊してでも働けっていうのか、じゃあ、社会の常識になってるかわかりませんが、今、現金以外のお金っていうくらいでもあふれている。たまたまツタヤカードを出しましたけれど、探せばいろんなものがある。よくテレビで、主婦の方が1円安い大根を買いに30分間自転車をこいで奔走する、みたいなテレビ番組やっていますが、ちゃんとお店を選んでポイントやれば、1円のために30分走る必要もない。もっと辛い仕事で時給の高い仕事に取り組む必要もない。ただ、選択的に今の社会の仕組みをうまく利用すれば、生活することがもう少しだけ向上できるよというような、そんなことを出来ない部分、不足している部分に対して、具体的に出来ることをアドバイスする、それが、自立のきっかけと言うより、自立を継続するために必要な事なんじゃないかなと思います。使える物は何でも使って、とにかく自分の身は自分で守る。だれも守ってくれないから、自分の力で生活できるだけのものを少なくとも作ろうじゃないかというのが私の考える自立だとします。

3つ目ですけど、よく勘違いされるんですが、働くことと働き続けることは、全く別の能力が必要です。こういうニートとかフリーター問題とかをやっていると、働くということに対して、すごく注目が集まったり、どうするんだみたいな話になるんですけど、もっと大事なのは、働き続けることです。定年するまで、死ぬまで何らかの形で賃金を稼ぐって言う意味では、働き続けられることが大切で、働くということも当然大事なんですけど、やっぱり地道にとまることなく、それなりに働くことと全く違う。

働くための準備が必要だと思います。これがまったく別の能力が必要です。働くことは、ぱっと考えた時に、自信というのもあります。自分は働けるんだとか、大丈夫だと思える自信も必要。スキル、能力あったほうが良い。資格も含めて、それが自信に繋がります。最終的には、自分は受かるだろうとか働けるだろうと確信に変われば、そんなに良いことはない。働くためのスキル、体力も含めて、働くための準備が最近結構あるんですけど、一方、離職も含めて、ニート、フリーターでアルバイト見つけた人、フリーターから正社員になった人でも、戻ってきてしまう子がいる。ようは、その状況で働き続けることができない人がいつ。その人に対して、何のアプローチが無ければ、継続的に自立の状況を保つことは出来ないんじゃないかと思います。実際、何を、今の高校生に対してしたら、ニートにならないか、働き続けられないかということは、正直分かりません。やってみて10年またないと分からない。ただ、現在、職業社会、仕事に就けてない人達から話を聞いて、じゃあ、働き続けられない理由って何処にあったのかなってことをまとめますと、やっぱり人間関係って言うのが一つ大きい。

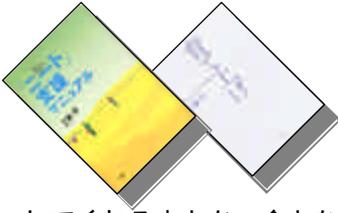
2つ目は、先ほど言いましたコミュニケーション。じゃあ、人間関係、働き続けられないと言うものですから、てっきり、首になったとか、仕事が出来ないからお前、辞めるとリストラにあったとかそんな能力の部分でずっと切られたのかと思ってたんですが、話を聞いてみると、首になったという話はあまり聞かない。じゃあ、何でやめたのと聞くと、職場関係



が気まづくなった。飲み会に行きたくない。もっと嫌うのは、カラオケという話もあります。職場の仲間でカラオケに行くのがとっても嫌で、いや過ぎて辞めた。自分が歌がうまくないと言うのもそうだし、もともとカラオケが嫌いだと言うのもあるし、職場が50代くらいの方が多かったものですから、たまたま自分の知ってる今どきの歌を歌ったら、そんな歌知らないからって途中で切られた。他の歌を歌えと言われて、でも、知らないから居心地が悪くなったから、辞めましたなんて、そんな人って意外といるんです。つまり、働くことは出来るのに、働き続けるために必要なことって分かんない。そんな人に対しても支援しています。どんな支援するかっていうのは、結構難しいんです。よく、カラオケに遊びに行くんです。みんなで、仕事の研修終わった後にですけど行く。今日はカラオケデーだ。カラオケに行く、ただ単にみんなで楽しくカラオケ歌ってさようならと言うとただのリクリエーションなんですけど、いかに社会的に支援に見せかけるか。外側に向かって、本人達のためになるものは何かと考えると、何をするかと言いますと、60代、50代、40代、30代、20代、10代、それぞれ流行った歌っていうものがある。泣かせる歌ってある。とにかく、男性であれば、女性はその当時を思い出して泣かせる歌。女性であれば、その世代の男性が聞いて、こんな歌も歌えるのか、いい奴だなんて、そんなふうに思っている歌を1曲だけでいいから覚えておけっていうふうに、先ほどコミュニケーションの時と一緒にですけど、具体的に働き続けるために、人間関係、不安だったら人間関係なんとか上手くいくための方法を教えてあげる。「職場に60代の男性がいました。私は、その世代の歌も歌えない。」と言われたとき、「梅沢富美男さんの夢芝居、歌っておけ。これだけ覚えておけば、職場の60代、全員、大丈夫だから。」実際、歌うと何でそんな歌、歌えるのという話で人間関係出来たりします。

よく、私達どもみたいな所では、スポーツとかもやるんです。レクリエーション的に自分達の仲間の中でチームに別れ、サッカーとかするんですが、これが良くない。じゃあ、何をやるか、まったくしらない支援団体とか連れてきて、大会とかやるんです。ようは、敵がいなくて味方にならない。協調性とかチームワークの楽しさとかを覚えるためには、やっぱり、敵が必要で、しかもなるべく見たことない人の方が良い。もっと言えば、激しく足を蹴っても、どうせ知らない人だからいいやと思える人と対戦とかすると、意外とチームがまとまってこういうことなんだというふうなことになる。これが働き続けるために必要なトレーニング。前に、読売新聞でニートの6割が部活をやっていないというデータも出ていました。部活をやったからニートになるとか、ならないというのはないんですけど、あくまで仕事がチームワークであるとするならば、それを学ぶ機会が必要だったのかなと思います。

先ほど紹介で、社会性という話がありましたけれど、やっぱり、社会から一度離れてしまいますと、みんなが経験したことを経験出来ない状況が生まれます。例えば、最近、ボランティアの人、女子大生さんが多くて、何で多いかという、もうすぐ卒論の発表なので、ニートのデータが欲しいのですとかってよく言われるんですけど、女子学生がボランティアで沢山来られて、かわいらしくて中々、華やかになる。27、28歳の男性、うちの利用者がどんなことするか、通常だったら、例えば、僕だったら、もしかしたら、お付き合いしたいとか、手をつなぎたいとか、一緒にどこかに行きたいとか、そのためのアプローチって考えます。どうやって話しかけようかな。一方、彼らは何をやっているか、誰が、どの人を好きなのか、みたいなことを情報共有している。昔、中高くらいで、クラスの男子と女子の好きな人を全部知っているコントロールタワーみたいな人っていたと思うんですけど、勝手にマッチング



してくれる人とか、今となっては、貴重かもしれません。恋愛ゲームって言うのを小、中、通してやって、実際、高校とか大学くらいで恋愛ゲームをして、働き始めてから、結婚をしてと言う段階的な経験を踏んで、社会に出て行くと思うんですが、彼らなんかを見ていると、20代後半とか、30代くらいで、まだ、恋愛ゲームをしている。じゃあ、幼いのかということ、そういう訳じゃなくて、小学校、中学校、高校で不登校だったりとか、行かなかったりとか、部活とか、友だちもあんまりいなかった中で、そういう当たり前にみんながやっていたような、経験というのが積めない中で、年齢が上がってしまったというのが、一部にあげられます。

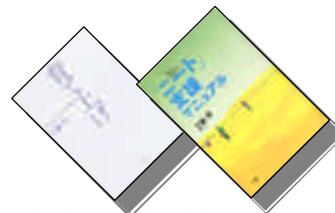
社会性は、家庭では身につかないもので、外で人と絡むことで、社会性を身に付けなければならない。じゃあ、その社会性って何のために身に付けるのか。働き続けるために、社会性というのは身に付ける。でも、働くって言うのは、また、別個の2つを両方やらないと、継続して、自立的な生活をするのは難しいじゃないかといつも実感しています。

自立に向けて

自立に向けての社会全体で何をしないといけないだろうかと考えました時に、よくあるのが、「頑張れ。」という人多い。「応援する。」とか、「君なら出来そうだから頑張れな。」とかって言います。「応援する。」「頑張れ、支援してやる。」ようは、あなたの力と意思で、自分一人の力で「頑張る」って、そんな言葉です。一方で、大丈夫だよと言ってくれる人がすごく減りました。昔は、こんなことやりたいんだって、近所のおじさんに言うと、「お前なら、大丈夫だよ。」僕のことを知らないのに、無責任に元気付けてくれる人居たんですけど、今は、責任取れないせいか、なかなか、「お前なら大丈夫だ。」と言ってもらうことが少なくなった気がします。昔はもっと、「あなたなら出来る。」「お前なら大丈夫だよ。」とか勇気付けられようなことを言われた記憶があるんですけど、今は、「頑張れ。頑張れ。頑張れ。」頑張れという発言が悪いわけじゃないんですが、やっぱり、前に向かう人に対して、「お前なら大丈夫だよ。」と根拠がなくても良いので言う人っていうのがもっと増えた方がいいと思いますし、「お前なら、大丈夫だから面接受けてみるよ。」と言うと、じゃあ受けてみます、みたいなそういうタイプはいっぱいいる。大丈夫だと言ってくれる大人が減る中で、一生懸命言っている。

2つ目は、思い切ってやると言うことが難しくなったかな。よく、「思い切ってやりなさい。」と言います。

神奈川で自立支援されているはじめ塾の和田先生という尊敬している先生がいるんですが、その人がいつも言っているんですが、今の大人は、社会は、若い人に「思い切って」やらせることがすごく下手、そんなことを言います。以前、どこかのシンポジウムでカウンセラーさん、キャリアカウンセラーさんと話した時にこんなことを言っていました。「今の若い人達は、職業についてよく考えて、思い切って飛び出して欲しい。」と言っていました。それは、おかしいんじゃないんですかという話をしたんですけども、思い切って一歩踏み出す時、思い切って一歩踏み出す時、「思い切って」という言葉がありますが、考えながらでは、思い切ってやることは出来ない、思い切ってやるために一番大事なのは、もう考えない。「思い」を

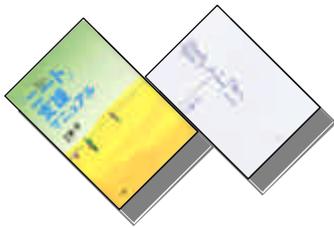


「切って」やらないといけない。良く考えて、「思い切ってやれ」なんていうのは、絶対無理なんです。

3つ目は、「良い加減」で「おせっかい」な人が減ったなということと思う。昔、頼んでないのに手伝ってくれる近所のおじさんがいたんですけど、こっちがのこぎり使ってなんか秘密基地を作ろうと思って、子どもが6人くらいで集まった時に、「そうやってやるんじゃないんだよ。」とか、「俺にやらしてみろ。」って、秘密基地を半分作ってくれて忙しいからと言って帰っちゃったという、いい加減でおせっかいなおじさんが近所にいたのをおもいだすんですけど。困ってそうに見える時に、腫れ物に触るような感じに世話をするようになるんですけど、また、後もう一つは、しっかり勉強してからその人に関わろうという人いるんですけど、比較的、いい意味で、「いい加減なお節介」って大事じゃないかと思います。

いい加減、昔で言うと、手抜き。この辺を教えてくれる人っていうのが、非常に少なくなりました。僕は、スタッフと打ち合わせをして、現場作業に行く時に、作業がない日にも、「作業がある。」と言う時があります。「今日、作業いくよ。だけど、ちょっといい天気だから、公園でジュースでも飲んでさぼろうよ。」と話とかします。まじめな人達が多いものから、「さぼっていいんですか、大丈夫ですか。」と言われるんですけど、「いいの、いいの、疲れたから、今日は。」と言うと、比較的、力を抜くってことを覚える。そんなことがあります。よく、営業車で寝ている営業マンがいます。真夏なんか、クーラーかけて寝ていますが、あれが良いか、悪いかって言うと、社会的な感覚よりは、やっぱり、暑い中で、体力が消耗する時に、ちょっと休む。本当はダメなんだけど、手抜きして、営業車の中で仮眠を取って、自分自身のバランスを保っている人がいる。昔は、上司とかが教えてくれたかもしれませんが、だんだんそういうことを教えてくれる人が少なくなって、みんな100%真面目に物事をやろうとしてつぶれていきます。自律神経やっちゃったりとか、うつ病になってしまったりとか、睡眠障害起こしてしまったりとか、100%何でも真面目にやるのが、すばらしいってなんとなく思っている人達に対して、少しいい加減でも良いんだよということを教える人がいなくなった。そんなことを教えるために、お節介を焼く人がすごく少なくなったところへんを一人一人がやっていくことで、ニート・フリーターだけでなく色々な若い人全般が結構、生きていくの出来そうだなと思えるんじゃないかと思います。ちなみに、お節介と言うのは、最近、日本語では、非常に悪いイメージがあります。自分の意思是、尊重せずに勝手に助けてくれるというか、大きなお世話を焼いてくれるというイメージがつかれましたけれど、お節介と言うのは、英語では、ビッグヘルプというそうです。やっぱり、相手にとって大きな助けになる。それが、借りに間違っていたとしても、逆にそれをじゃあ、間違っていたから、他のことをしようというような自分の思い込みだけで行動しようと思っていた。絶対的に物事を考えている人に対して、いい意味でも悪い意味でもお節介をすることで、相対化する。比較して比べられるということが生まれるんじゃないかと思います。その意味で、いい加減なお節介、社会の中でやっていかなければならないんじゃないかと思います。

今日の話は、一貫して、「自立って何ですか。」「コミュニケーションって何ですか。」それに対する自分なりの答えっていうのを持たない人が、若い人に関わると混乱させるというようなイメージで話をしてきましたけれど、働くなって、何のために働くのかということをお自分なりに伝えられないで関わった時に、思わず、食べていくためとか、生活するためとかって



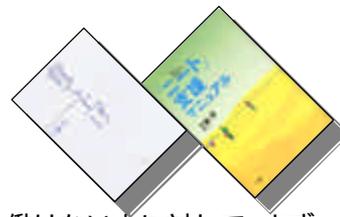
いう非常にシンプルで当然ですけど、動機づけにならないような答えを出してしまう。

ずっと5年くらい完全にひきこもった若い人がいまして、家の団体に来ました。1年くらいして、ケアワーカー、正社員で介護系のところで働いて2年くらいになります。この前、彼女が出来たと遊びに来てくれて、「今、いくら稼いでいるの?」「万円、うちの職員より高いじゃん。」という、笑っていて、「エヘヘ」なんて言っていました。彼と、5年間何もしていなかった時と、1年間、寝ることも出来ないような職場なんですけど、がんばって働いて来て、その違いを聞いた時、働くってこういうことかなと思った。彼は、働かないといけないと思っていた。5年間、働くことって辛いことだと思っていたそうです。しんどいことだ、へたすれば、自分が死んでしまうかもしれない。身も心もボロボロになって、その上で、お金を稼ぐ、それが、働くことだと思ったそうです。「じゃあ、働いている今はどうだい。」と聞くと、「つらい。しんどい。身も心も結構苦しい。働く前は、働くことがしんどいと思っていた。でも、実際、働いてみるとしんどい。でも、働いている方が楽だ。働くことで楽になった。働いていても、働いていなくてもしんどいはしんどい。ただ、働いてないよりは、働いている方が、社会的に楽になった。」とってくれた。「社会的に楽になったと言うのは、何?」と聞いた時、勿論、学者さん達が使うような難しいことは出てこないんですけど、何点か、こんなことと挙げてくれた。1つは、地元の友だちとか知り合いに会った時、「何やってんの。」と聞かれる。「何やってんの。」に対して、答えることが出来るようになった。「ケアワーカー、介護施設で働いている。」それだけで、今まで遠くに自分の友だちっぽいの人を見たら逃げていたのが、普通に堂々と歩けます。楽になりました。

2つ目は、街頭のアンケート、「アンケートをお願いします。書いてください。」と言われた時、職業欄に書けなかった。今は、職業欄に職業を書くことが出来る。働いていない時は、無職とは書きづらい、だから、一応、フリーターと書くけれど、実際、アルバイトもしていない自分にアンケートを答えるごとに嫌になって、街頭アンケート見つけると、自分をお願いされないように、こそこそ歩いたり、タイミング見計らって歩いたりしていた、今は、職業欄に書ける自分があるので、今は、普通に歩く、そんなことが出来るようになりました。働いて楽になりました。

彼は、今、保護者の方と一緒に同居しているんです。お父さん、お母さんはお酒を嗜むそうなんですけど、対等に話が出来るようになった。本当は対等じゃないのかもしれませんが、どういう意味でかということ、今の自分の給料だったら、いつでも一人暮らしが可能だ。だから、彼は、28歳くらいだと思うんですけど、お世話になっている感、みたいなのが、今、お金を家に入れていたというのもそうなんですけど、この年でも養われているって言う感覚がなくなったおかげで、お父さん、お母さんとお酒を飲みながら何もびびることなく、戦々恐々としながら話すことがなくなったって言っていました。お金の話が出てきても大丈夫、将来の話が出てきても大丈夫、一人暮らしの話題がテレビでやっていたときも、今は、普通に見ることが出来る。働くことによって、保護者との会話がとっても楽になった。それを聞いた時に、最初働いて、何だろうと考えてはいたんですけど、働くことによって、より楽になる。ただ、働くことも辛い。でも、働かないことも、どうせつらい。同じ辛いならやっぱり働いて楽になって欲しい。楽になれるという意味で、若者の経済的自立の支援というのを今も行っています。

これから、もしかしたら、正社員の職も増えるかもしれない。正社員が増えなくても、必



然的アルバイトとか派遣という職も出てくるかもしれない。今、働けない人に対して、まず、第一歩を踏み出すアルバイトから踏み出すという状況が生まれるとしたときに、今日、話した内容というのが、意外と本人達を勇気付ける。一步踏み出す効果があるんじゃないかと思います。そして、お金を稼いで働きはじめた。働き続けることも出来るようになった。最後、今後、働き続けるために大事な事っていうのは、家と職場以外の場所を持てるかどうかで、離職するかというのが、明確に出てきます。家と職場以外の場所で自分を受け入れてくれる人、または、職場、家意外で自分が欲しいもの、お金を使う理由。これがあると働き続けられます。今日は、パネリストの中に田辺市青年ネットワークの方が話されるんですけど、ひきこもりに特化したところじゃないと思うんですけど、こういう場所、サークルとか昔の友だちが仮にいないのであれば、こういう場所に所属していることで、働きにいけるようになったときに離職する確立が格段に下がることは、間違いないです。家で嫌なことがあったのが職場で出る。職場で嫌なことがあったのが家に出る。それ以外の居場所がないと必ず煮詰まります。机でもそうですけど、脚が3本あると安定します。ロッククライマーは、4本の手足の内、必ず3本は地に付けて、1本だけを動かして上に登っていきますけど、自分自身というテーブルを支える時に所属する場所が3つ以上ない人っていうのは、かなり不安定です。もし、そういうのが必要だなと思った人は、田辺市青年ネットワークみたいなところもありますので、それぞれ自宅と職場以外に行ける場所を見つけて欲しい。または、そういう場所の情報を伝えるための準備をしておいてほしいと思います。

今日のお話したのは、あくまでも東京でやっていることで、私達の地元にはというところもあるかもしれませんが、根本的なところは変わらないと思っています。パネルディスカッションに登壇されている方は、和歌山県内でご活躍されている方だと思います。終わった後、話したいと思ったら、連絡したら出来れば、今、興味関心があれば、連絡してもらえたら、と思います。大丈夫だよと言ってあげてください。

【シンポジウム内容】

田辺市青年ネットワークから

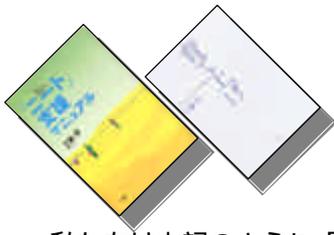
代表 山本 純司 氏

田辺市青年ネットワークの紹介

田辺市青年ネットワークとは、各種イベントの企画・参加、ボランティア活動等を行っている団体です。現在約35名の会員（年齢:15歳～35歳）が多種多様な交流活動を通じ、集まって活動することの楽しさを分かち合い、人と人との輪を広げ交流を図っています。今まで活動例としまして、扇ヶ浜公園の清掃活動・先日世界遺産に登録されました「熊野古道ウォーク」・周辺の町村とも交流を深めた「ビーチボールバレー大会・バーベキュー」、また毎月1回定期ミーティングを行い、イベントの企画等会員同士の意見交換も行っております。

田辺市青年ネットワークとニートについて（約4分）

現在、田辺市青年ネットワークの会員の皆さんは働いているがほとんどです。しかし私たちの団体は、必ずしも職に就いていないと加入できない、という決まりではございません。



私たちは上記のように「横のつながり」を大切に、楽しい活動をしております。また、会員さんの職業は人それぞれ違います。会員さんの色々な意見を聞き、活動することによって成長できれば、と思っております。興味のある方は是非仲間になりませんか？

学校現場から

県立神島高校 上野 剛志 氏

現在の高校生の実態について特徴的なことを述べたいと思います。

まず目立つのは無気力な生徒の増加です。入学し、高校生活がスタートしたそのときからすでに、留年にならないことだけを目指している生徒が年々増加しています。クラブ活動にも極めて消極的で、卒業間近になっても進学のための勉強や就職活動もおこないません。

もちろん、このような生徒が、卒業後ニートになるのかということ、そう断定することはできません。アルバイト先では、学校では見せたことがないようないきいきとした表情を見せていることも多々あります。

一方、人間関係のつながりの希薄さもよく感じます。半年以上クラスメイトであるにも関わらずお互いの名前を知らない生徒や、友達と一緒にいるにもかかわらずそれぞれ違う人とメールをしている場面も多く見受けられます。

高等学校の現場では、こういった無気力な生徒や、つながりを持ってない、いわば集団生活が苦手な生徒達にどのように接していけばいいのか、多くの先生が悩んでいます。

企業関係者から

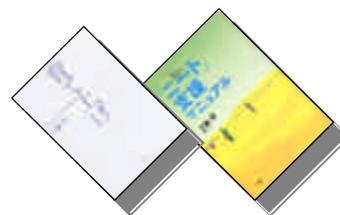
県経済団体職員 渥美 正道 氏

成人した個人・家庭・個人事業者・法人企業などにとって、世渡りは、自助が基本であると思います。就労適齢期に達したに拘わらず、就労できないでいるニートと言われる若者に、社会の壁を登る階段を用意し介助するのが、講師先生が実践しておられる自立支援であると思います。

市場競争下で厳しい自助努力を求められつつも、若年者の就労支援問題に関心をもってくださっている企業も多くあります。一方で厳しい自助努力・一方で地域社会の一員として(本件に限らず様々な)社会貢献を求められる企業、この厳しい現実を踏まえると、ニートと言われる若者が、自立支援から自立(就職)へ向かうには、企業に社会貢献を求めるだけでなく、事業経営上のメリットを与えるなどの政策的支援(研修補助制度など)が必要だと思います。

現在、経済団体からジョブカフェわかやまという若年者の就労支援機関に出向して働いております。かつては農林業や商店・町工場など小規模な個人事業主を含む地域コミュニティが若年者就労の大きな受け皿になっていたが、そこでの雇用吸収力は減少しています。ニート支援のためには地域コミュニティの支援が是非とも必要です。コミュニティビジネスの起業が注目されていますが、これの実現性・有効性について講師先生の見解をお聞かせ下さい。

- (9) . 若者の社会的自立を考える講演会



感想

- ・大変勉強になりました。今回の講演の内容については、私共、子どもとは少し内容が異なるように思われました。
- ・シンポジウムはつらかったです。
- ・寒かった。パネラーや工藤さん、話しかみ合わない。
- ・物事を継続することが出来ない子どもが多い。自分の感情を表現できにくい。人間関係のつながりの希薄さを感じられる無気力な生徒が多い。この子ども達が社会人となった時、やはり人間関係の構築が困難になるだろうと思います。
- ・具体的提案がわかりやすく、とてもためになりました。今、若者のためにお金をいれることの大切さをもっとPRしていただきたいです。
- ・子どもと一緒にですが、一生懸命、耳を傾けていました。工藤先生の話は分かりやすく良かったと思います。余り笑顔もなかったけど、クスクス笑ってました。いつになったら、声を出して笑えるのかなあ。
- ・現在かかえているニート・ひきこもりの問題点を分かりやすく、説明いただいて、大変勉強になりました。
- ・青年ネットワークの山本さんの「おいしい」と感じる感覚のお話は、すごいと思いました。他、たくさん参考になるお話をありがとうございました。
- ・将来、ニートになるかも知れない」このような生徒を預かっている学校関係者として、大変勉強になりました。特に、「大丈夫だよ」考えて行動する」より「思い」を「切る」ことの重要性が印象に残りました。また、ニートの人は、働くことは辛いことだと思っている、実際、働いた人も、同様に働くことは辛い。しかし、どちらも辛いけど、働いている方が少し楽だ。このことも印象に残った。更に、家と職場以外の場所を持つ必要性。

実際に困っていること

コミュニケーションのとれない、とりにくい生徒の口を開かせること。対人関係育成のワークショップ等を行っていますが、容易ではありません。

「学びたい」「働きたい」「会話をしたい」このような潜在的な欲求を少しずつでも開花させたいと思っています。ありがとうございました。

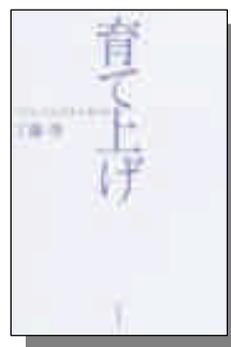
- ・企業と学校の関わりがないことが気になる。

工藤 啓氏 著書

「ニート」支援マニュアル
(PHP研究所)



育て上げ
(PHP研究所)



田辺市ひきこもり検討委員会 (平成18年度) 議題

<p>第1回 (H18.4.22) 出席者23名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義「ひきこもり」について ・相談窓口開設の経過とこれまでの取り組み ・平成18年度事業について 	<p>第2回 (H18.10.28) 出席者21名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度上半期事業報告 ・平成18年度下半期事業計画 
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

小委員会 (平成18年度) 議題

<p>第1回 (H18.5.25) 出席者10名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度事業について ・昨年度からの課題について 	<p>第6回 (H18.11.30) 出席者 6名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会報告 ・行政局講座について ・自助会イベントについて
<p>第2回 (H18.6.22) 出席者10名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度事業について ・昨年度からの課題について 	<p>第7回 (H18.12.7) 出席者 6名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政局講座について ・イベントについて ・講演会について
<p>第3回 (H18.7.27) 出席者10名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助会イベントの様子について ・講演会について ・紀南地域若者サポートステーションについて ・小委員会日程変更について ・行政局での講座について 	<p>第8回 (H18.1.18) 出席者 6名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会の結果報告 ・中学校・高等学校調査結果について ・自助イベントまとめについて
<p>第4回 (H18.8.24) 出席者 9名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態調査について ・大同生命の研究事業について ・自助会の活動について ・青少年長期社会体験活動事業について ・講演会について ・行政局アンケートについて ・自助会イベントについて 	<p>第9回 (H18.2.15) 出席者 6名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助会のまとめ ・ケース検討 ・自助会・家族会～講演・交流会～について ・平成18年度のまとめについて
<p>第5回 (H18.9.28) 出席者 8名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会について ・自助会イベントについて ・行政局アンケートについて ・自助会イベントについて ・窓口案内チラシ(裏面)の変更 	<p>第10回 (H18.3.15) 出席者 4名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助会・家族会～講演・交流会～報告 ・まとめについて ・来年度計画 ・委員任期について

(11). 田辺市ひきこもり相談窓口担当者感想

雑 感

ひきこもり相談窓口担当 目良 宣子

平成18年度は、青年自助会に力をいれてきた1年だった。個別の相談から仲間との交流にすすみ、イベント・ほんまもん体験・他団体との交流等、様々な体験活動を繰り広げ、できるだけ活動の場を増やし、活動を通じて人との関係が深まっていく機会を持ってきた。毎回のように居場所的に参加した青年や、興味のあることに一回だけ参加した青年、既に就労或いは訓練を受けている為に参加したくても参加できなかった青年等、色々であった。青年の行動が少しずつ広がり、体験を通じて、完全でなくてもいい、他者を認め自分を認める、ありのままを受け入れていくなど、緊張感や硬さが少しずつ緩んでいった。人と交わる楽しさも、経験の中から感じ取ってきているとはいえ、仮に進学や就職をしたとしても、新しい環境で新しい人との関わりを持つことは非常に苦手である。面接場面では、学校へ行っても仕事をしても一緒、友達は出来ない、寂しいという言葉が聴かれた。

ひきこもり期間を人生の通過点(アルバムの数ページ)としてとらえるならば、じっくりひきこもって、自分と向き合う時間をたっぷり持つこともいいだろう。いったいどのくらいの時間までが、本人も周りの人も許容時間とすることが出来るのだろうか？

今年度途中で一度関わりを中断していたが、足掛け6年間支援し続けていた青年に、劇的に出会えることになった。義務教育終了後18年ぶりにである。自宅中心の生活から久しぶりに外出した青年は、すっかり変わってしまった町並みに大変驚いていた。

社会生活から一時的ではなく長年にわたって離れてしまうことは、その後への生活適応に支障をきたすことが多くなる。対人関係においては尚更である。会話の成立、言葉の交わり方、他者との距離のとり方等は、家庭内においてさえ難しくなることも少なくない。

支援のゴールはどこなのか。青年が「もういいよ」と離れていくまで関わっていくとするならば、青年の希望である就労なのか、他者との関係を築く力をつけることなのか。どちらがとはいえないことではあるが、前者に比べて後者の方が容易ではない。

平均寿命が伸び、少子化が進む中、地域のつながりは希薄化する一方、家庭内に課せられる責任が大きい。いいかえれば、青年を家庭で抱え込み、家族さえ孤立化しやすい状況が生まれている。青年も家族もひきこもり状態にあるといえる。親の経済力が続く間は何とかなっても、親自身も将来設計への不安が募り、本人もまた、親亡き後の不安を抱えている。家族は、自分らしい生き方をあきらめてしまっており、一方で青年は、自身で何とかしたくても動かないからだと気持ちをひきずっている。現在社会で生き辛さを抱えている青年も家族も、生まれてきてよかった、生きてきてよかったと実感するそれぞれの幸せを手にするために、これからも支援が続いていく。人は人の中で生きている、生かされている。人は広い意味でのコミュニケーションなくしては存在し辛い動物である。このことについて来年度も、もう少し深めて考えてみたい。

最後に、今年度「青少年の社会的自立支援モデルプログラムの開発」事業の企画委員として参加させてもらい、幅広く勉強する機会をいただいたことに感謝したいと思う。

ひきこもり相談窓口を担当して

ひきこもり窓口担当 小川 香織

私が、田辺市のひきこもり相談窓口の担当になり、1年が経ちました。十分な知識がないままにこの支援に携わり、知識の無さを感じながら、常に私に何が出来るのだろう、どうすればよいのだろうかと思いながら、自助会等の当事者支援に関わってきた手探りの1年でした。また、家族会や検討委員会に参加させていただいたり、関係機関に研修に行かせていただいたりするなかで、本当に、色んなことを知り、経験することが出来、今まで出会うことのなかった方々との出会いもあり、私にとって実りのあるものでした。

最初、家族会に参加させていただき、参加されている家族の方が、本当に前向きだということに驚きました。それぞれ、色んな状況を抱えながら、ひきこもっている青年と関わる様子など、家族の方の話を聞きながら、自分自身の家族のあり方や子育てということについても改めて考えさせられました。ただ、ひきこもりということに対して、やはり周囲の目もまだまだ厳しく、それぞれ、色々な状況を抱えているなかで、ひきこもるという状態を受け止めていくことは、家族の方にとっても本当に大変なことであり、家族支援というのも本当に大事であるということを感じました。

この支援に関わる前、ひきこもるという事は、これほどしんどいことであると思いませんでした。いろいろなストレスなど、社会で生きづらさを感じた方々が、ひきこもることによって少しは楽になれるのかなとも思っていました。勿論、ひきこもるという事は、一時的ならば良いのかもしれませんが、長くなれば長くなるほど、しんどいことであるというのを感じました。ただ、ひきこもるというのは、自分を保つためには、必要なことであったのだろうということも、この支援に関わらせていただいて、強く感じました。

実際、自助会等の場に出てこられた当事者の方と関わっていると、本当に物事を真面目に考え、周りのことを思いやる事が出来る青年達だと感じます。もし、考えすぎずに動いてみるということが出来れば、少し楽になることができるのかなとも思います。勿論、よく考えて、周りの人のことを考えられるということは、良い点であると思います。でも、そのために、動きたいのに動けないのであれば、一步を踏み出すきっかけが作ればよいのと思います。そのために、微力ではあると思いますが、お手伝いを出来ることがあればと考えています。自助会・家族会の講演・交流会で和歌山大学の幡川氏が言っていたように、いつか「ひきこもっていたことは無駄ではなかった。」と振り返ることが出来るときが早く訪れればと思います。

- (11). 田辺市ひきこもり相談窓口担当者感想



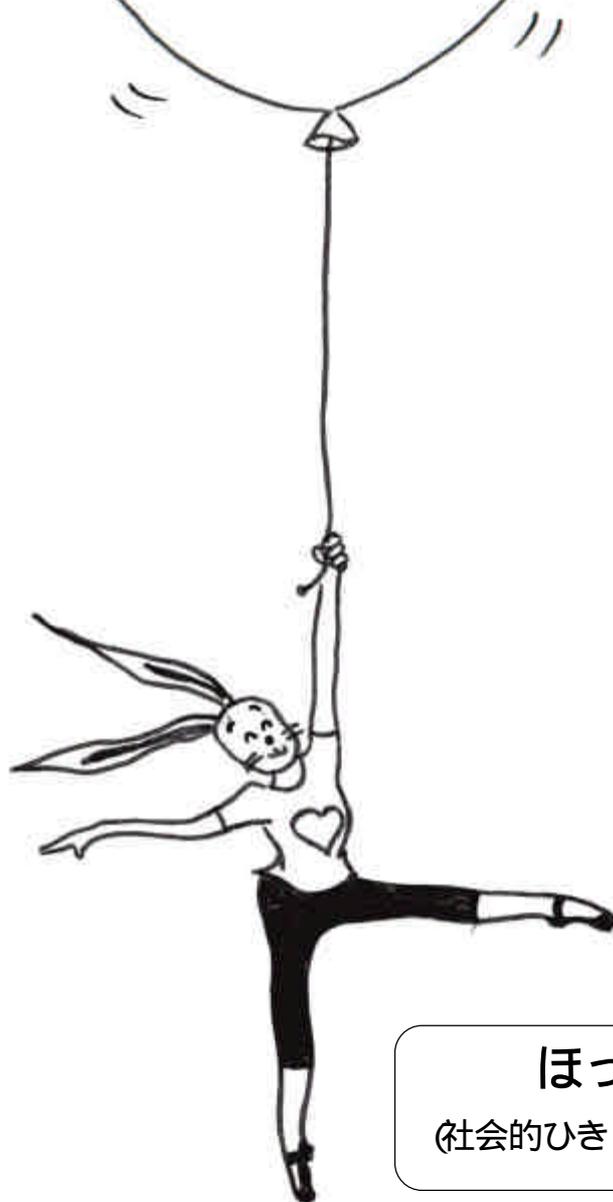
．参考資料

1．社会的ひきこもり家族の会 ほっこり会紹介ビラ	．．．	73
2．ハートツリー 紹介ビラ	．．．．	74
3．田辺市ひきこもり検討委員会		
【設置要綱】	．．．．．	75
【平成 18 年度 委員名簿】	．．．．．	77





家から こども が
でられない
家族 でかかえこまないで
ほっこり しませんか



ほっこり会
(社会的ひきこもり家族の会)

社会的ひきこもり青年の居場所

NPO 法人ハートツリー

Heart Tree House...

木々が地に根を生やし
枝の1本1本が広がり
豊かに実ることで
大きくなっていく...

そんな風に心も育っていければ...

利用対象

「ひきこもり」状態にある青少年

対象年齢

15歳～30歳代までの男女
見学、体験利用も可能です

開所時間

月曜日～金曜日 13:00～17:00



since 2002

〒646-0032

和歌山県田辺市下屋敷町98番地

Te & Fax 0739(25)8308

E-mail: heart-h@mb.aikis.or.jp

URL: <http://www.aikis.or.jp/~heart/>

田辺市ひきこもり検討委員会 【設置要綱】

【設置】

第1条 思春期・青年期にある者（以下「青少年」という。）にみられる「ひきこもり」の問題について、関係機関が相互に連携して一体となって取り組むことを目的として、田辺市「ひきこもり」検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

【検討事項】

第2条 委員会は、前条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事項について検討等を行う。

- (1) 「ひきこもり」の状態にある青少年についての支援活動に関すること。
- (2) 前号に規定する青少年に関する問題点等について検討すること。
- (3) 「ひきこもり」の予防活動に関すること。
- (4) 「ひきこもり」に関する研修や研究会に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、委員会の目的達成のために必要な事項に関すること。

【組織】

第3条 委員会は、委員36名以内で組織する。

2 委員は次に掲げる関係機関の職員のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 社会福祉法人やおき福祉会
- (2) 社会福祉法人ふたば福祉会
- (3) 民間支援団体
- (4) 紀南こころの医療センター
- (5) 南紀福祉センター
- (6) 田辺保健所
- (7) 紀南児童相談所
- (8) 田辺市教育研究所
- (9) 田辺青少年補導センター
- (10) 主任児童委員
- (11) 田辺市母子保健推進委員会
- (12) 知識経験ある方
- (13) 紀南六校代表
- (14) 南部高校 龍神分校
- (15) ひきこもり家族会代表
- (16) 当事者代表

- (1 7) 保健福祉部長
- (1 8) 子育て推進課
- (1 9) やすらぎ対策課
- (2 0) 商工振興課
- (2 1) 学校教育課 (幼稚園・小・中学校関係)
- (2 2) 生涯学習課
- (2 3) 児童育成課
- (2 4) 健康増進課

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

【委員会】

第4条 委員会に委員長及び副委員長2名を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

【会議】

第5条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員会の委員の代表による小委員会を設置し、定期的に会議を開き、その結果は委員会へ報告する。

3 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の意見又は説明を聴くため、その者に委員会への出席又は文書の提出を求めることができる。

【事務局】

第6条 委員会の事務局は、保健福祉部健康増進課に置く。

【その他】

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成17年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

田辺市ひきこもり検討委員会 【平成18年度 委員名簿】

	選出区分	備考(選出団体、役職名)	氏名
委員長	1 社会福祉法人ふたば福祉会	社会福祉法人ふたば福祉会	米川 徳昭
副委員長	2 社会福祉法人やおき福祉会	社会福祉法人やおき福祉会	寺沢 啓三
副委員長	3 学識経験者		布袋 太三
小委員	4 社会福祉法人やおき福祉会	紀南障害者就業・生活センター	横矢 弥生
小委員	5 社会福祉法人ふたば福祉会	社会福祉法人ふたば福祉会	野長瀬 祐樹
小委員	6 民間支援団体	ハートソリー	南 芳樹
小委員	7 田辺保健所	精神保健福祉相談員	栗田 直嗣
小委員	8 南紀福祉センター	医師	宮本 聡
小委員	9 学校教育課	田辺市	南 俊秀
小委員	10 児童育成課	田辺市	佐藤 真
小委員	11 やすらぎ対策課	田辺市	今見 邦夫
小委員	12 健康増進課	田辺市 ひきこもり相談窓口担当	目良 宣子
	13 民間支援団体	ハートソリー	酒井 滋子
	14 紀南こころの医療センター	精神保健福祉相談員	和田 光弘
	15 紀南こころの医療センター	医師	早田 聡宏
	16 紀南児童相談所		古川 茂代
	17 田辺市教育研究所	教育相談担当	木下 郁子
	18 主任児童委員		佐武 末子
	19 田辺市母子保健推進員		酒井 知津代
	20 学識経験者		松下 直樹
	21 学識経験者	龍神行政局 民生児童委員協議会会長	五味 貢
	22 学識経験者	龍神行政局	山本 尚司
	23 学識経験者	大塔行政局	尾崎 史予水
	24 学識経験者	大塔行政局 民生児童委員	谷口 敬子
	25 学識経験者	中辺路行政局 民生児童委員	飯田 公子
	26 学識経験者	中辺路行政局	横矢 豊子
	27 学識経験者	本宮行政局	九鬼 聖城
	28 学識経験者	本宮行政局	芝 栄子
	29 紀南六高校代表	田辺商業高等学校	上野 剛志
	30 南部高等学校龍神分校	南部高校龍神分校	田城 麻紀
	31 家族会	ほっこり会	愛瀬 典子
	32 当事者	ひきこもり自助会 知音	楠本 哲也
	33 子育て推進課	田辺市	塩本 幹子
	34 商工振興課	田辺市	鍋屋 安則
	35 生涯学習課	田辺市	小川 雅則
	36 保健福祉部長	田辺市	中瀬 政男